

2022 2023
令和4年度～令和5年度

酒田市美術館年報

Sakata City Museum of Art

2022 2023
令和4年度～令和5年度

酒田市美術館年報

Sakata City Museum of Art

酒 田 市 美 術 館



より親しまれる 美術館を目指して

酒田市美術館 館長 石川 好

酒田市美術館は、平成9年に開館して以来市民の皆様に優れた美術展を提供し、日常生活において喜び、安らぎを享受していただけるよう努めてまいりました。そして、平成27年7月、入館者はついに100万人の大台を突破するに至りました。

これまで当館に賜りました酒田市をはじめとする多くの方々のご支援に、心から感謝申し上げます。

このたび、令和4年度～5年度までの事業活動をまとめた年報を刊行いたします。これにより、当館がどのような事業体であり、これまでどう役割を果たしてきたか、ご理解いただけるものと思います。

各年度の展覧会活動は、常設展として酒田市で所蔵する高橋剛氏・斎藤長三氏・佐藤昌祐氏の作品、そして平成24年に寄贈された國領経郎氏の作品、並びに本財団名誉理事長 新田嘉一氏・岸田隆氏のコレクションを中心に、酒田市ゆかりの作家等の作品を、また特別企画展として年6回、国内外の著名作家の手になる高い芸術性をもつ作品を紹介してまいりました。その根底にあるのは、市民に親しまれる市民のための美術館という理念、そして、芸術表現の多様性と感動を市民に伝える、この一点に尽きます。

また、市民ギャラリーでは市民の創作活動の発表、教育普及活動では講演会、作品解説会、子どもを対象としたワークショップや絵画展などを毎年開催し、ここに多くの市民が参加していることは、ご承知のとおりです。

このような当館の活動状況を取りまとめた年報をご高覧いただき、なお、ご指導ご助言を賜りたく存じます。

今後とも市民の皆様とともに芸術文化を振興していく施設を目指し、当館の諸活動を充実させる所存であります。次なる目標は200万人目の入館者を迎えることです。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

※館長の石川 好は、令和6年8月19日に逝去しました。

基本理念

酒田市美術館は、市の南西部、飯森山地区の小高い丘陵地に広がる約3万1千平方メートルの広大な敷地に、酒田市の芸術文化振興の一翼を担う施設として建設されました。

酒田市の教育文化ゾーンであるこの地には、東北公益文科大学、土門拳記念館、国体記念体育館、出羽遊心館があり、多くの方々が集い親しんでいます。

本美術館の基本コンセプトは、大きく三つに分けることができます。

第一には、酒田市のみならず庄内地域全体の美術館として、文化勲章を受章された洋画家の森田茂の作品、郷土出身の彫刻家 高橋剛、石黒光二、洋画家 斎藤長三、佐藤昌祐や國領経郎の作品など、酒田市が所蔵する多くの美術作品を良好な環境のもとで収蔵するとともに、日本の近・現代作品や本市にゆかりの深い芸術家の作品を収集していくことです。

第二には、上記の作家らによる作品を中心とした収蔵品の常設展示と、年6回の特別展示を開催し、地方においても国内外の優れた美術品に接する機会を提供していくことです。加えて、市民の旺盛な創作活動の成果を発表する場として、市民ギャラリーの活用を図ることです。

第三は、ワークショップやギャラリートークの開催、また、ミュージアムコンサートなどの教育普及活動を推進することであり、これらのコンセプトに基づき、将来にわたり本市の芸術文化の向上に寄与し、市民の生活に喜びと潤いの機会を提供することを目的にしています。

美術館の設計は、周囲の自然環境と建築の調和を特徴とし、日本芸術院会員の建築家 池原義郎氏の手によるものです。

最上川、酒田市街、鳥海山、そして遠く出羽三山を一望できる美術館は、市民の憩いの場として愛され、親しまれています。

目次 CONTENTS

はじめに	02
より親しまれる美術館を目指して	
基本理念	03

2022 令和4年度

1. 展覧会事業	06
(1) 企画展示	
心のかたち 彫刻家・峯田義郎展	
リサとガスパールのおもいで展	
版画・水彩画による平山郁夫	
～シルクロードと奥の細道～	
酒田市美術館・土門拳記念館共同企画	
2つのまなざし 江成常夫と土門拳	
ーヒロシマ・ナガサキー	
第77回県美展酒田巡回展・	
第64回こども県展	
渡辺おさむ お菓子の美術館	
(2) 連携企画	
いいいろいろ展「世界をいろいろ」	
ミライニ（酒田市立中央図書館）との連携事業	
まち×アートをテーマにトークセッション	
「ときめくSAKATART」	
第1回 美術館出前（オーダーメイド）型ゼミ	
「アフターコロナの集客方法／	
集客できるチラシ、SNSの活用法」	
第2回 美術館出前（オーダーメイド）型ゼミ	
「コレクションの活用法／ミュージアム	
グッズの可能性『もっと知りたい！	
ミュージアムグッズの世界』	
庄内教育事務所との連携事業	
えほんとアートでおかしの世界へ！	
(3) 常設展示	
2. 教育普及事業	19
ワークショップ	
ギャラリートーク	
その他企画	
スクールプログラム	
3. 市民ギャラリー利用状況	22
4. 入館状況	23

2023 令和5年度

1. 展覧会事業	24
(1) 企画展示	
天童市美術館収蔵品	
熊谷守一 いのちを描く	
酒田市美術館・土門拳記念館連携企画	
心に山ありて幸いなり	
山岳写真家 白旗史朗展	
サンリオデザイナーのおしごと展	
石黒光二 彫刻展 一心・空間・かたちー	
第78回県美展酒田巡回展・	
第65回こども県展	
画業50周年 一瞬間の“煌めき”	
中島潔 令和の心を女性に描く	
(2) 連携企画	
いいいろいろ展	
「のぞいてみよう、アートの裏側」	
第3回 美術館出前（オーダーメイド）型ゼミ	
（最終回）	
「文化施設の連携と職員同士の交流の場	
づくりについて」	
(3) 常設展示	
2. 教育普及事業	41
ワークショップ	
ギャラリートーク	
その他企画	
スクールプログラム	
3. 市民ギャラリー利用状況	46
4. 入館状況	47

展覧会ポスター	49
令和4年度 特別展	50
令和4年度 その他ポスター	51
令和5年度 特別展	52
令和5年度 収蔵品展 その他	53
学芸員研究紀要	55
山岳写真家・白簾史朗の 「山岳写真」について 学芸主任 武内 治子	56
参考資料	59
沿革	60
施設概要	61
各室別面積表	62
組織・職員	63
特別企画展一覧	64
年度別入館状況	70
利用案内	71

心のかたち 彫刻家・峯田義郎展

会 期／令和4年3月19日(土)～4月24日(日)
主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館
共 催／酒田市、酒田市教育委員会
協 力／東京渋谷 和々 nana gallery、株式会社 鈴木鑄造所
担 当／学芸員 井上 瑠菜
入場者数／1,824人

◎展覧会趣旨

彫刻家・峯田義郎は1937年山形市生まれ。1956年東京教育大学(現・筑波大学)芸術学科入学、1961年に同大学専攻科を修了しました。「白日会展」と「日展」に出品。「日展」には1983年まで出品し、1974、75年に特選、「昭和会展」では林武賞を受賞しました。翌年には文化庁派遣、芸術家在外研修員としてメキシコ、イタリア、フランスで学びました。1987年には「白日会展」内閣総理大臣賞、「高村光太郎大賞展」特別優秀賞、長野野外彫刻賞、第1回コンスタンチン・ブランクーシ大賞など数多くの受賞を重ねています。現在は、東北芸術工科大学名誉教授、白日会顧問。

峯田は、心に浮かぶ思いや自然を新たな視点でとらえ、かたちの自立を求めて制作を続けています。峯田作品は、私たちが感じている日々の暮らし、あるいは旅先でふと見た風景を想起させ、誰もがもつ普遍的な「心のかたち」に気付かせてくれるのではないのでしょうか。本展では、「髪」「風」「午後」「旅」をテーマとしたシリーズ作品を中心に、初期から現在にいたるまでの彫刻と平面作品をまじえて約60点の作品を紹介しました。

◎関連企画

峯田義郎展 開幕式

日時 3月19日(土) 午前9時30分～10時
会場 エントランス

対談ギャラリートーク

日時 3月19日(土) 午後2時～3時
会場 展示室
講師 峯田義郎氏(彫刻家)、当館学芸員

アートツアー「自分の“こころのかたち”発見!」

日時 3月20日(日) 午後1時～2時、午後3時～4時
会場 展示室
講師 峯田さゆり氏(東京渋谷 和々 nana gallery)

詩人 高瀬靖の詩を読む「阿蘇孝子さんによる詩の朗読会」

日時 4月3日(日) 午後2時～3時15分
会場 市民ギャラリー
出演 朗 読 阿蘇孝子氏(酒田詩の朗読会 主宰)
ギター 佐々木正氏
お 話 高瀬靖氏
箏 高瀬克子氏



アートツアー 峯田さゆり氏

心のかたち 彫刻家・峯田義郎展 作品リスト

※立体作品の寸法は高さ×幅×奥行、平面作品は縦×横の順に記載しました。

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(cm)	備考
■ エントランスホール					
第1章 「かたち」のはじまり					
1	男の顔	学生時代	ブロンズ	45×20×15	
2	髪結い	1970年	ブロンズ	180×82×45	
3	閉ざされた時間(とき)	1987年	ブロンズ	69×36×81	
4	髪を結う女Ⅰ	1971年	ブロンズ	86×33×45	
5	髪を結う女Ⅱ	制作年不詳	ブロンズ	48×42×34.5	
6	旅・それぞれの道	1998年	ブロンズ	33×27×11	個人蔵
■ 企画展示室					
第2章 「かたち」とそのメッセージ性					
7	風考Ⅰ	1974年	ブロンズ	55×35×30	
8	風考Ⅱ	1975年	ブロンズ	35×52×33	
9	月を見つめる防人	1970年代	ブロンズ	29.5×10×10	個人蔵
10	沖を見つめる防人	1973年	ブロンズ	56×29×26	
11	風の日 島を出た女 ー岬ー	1974年	ブロンズ	70×21×29	
12	浜の女	1972年	ブロンズ	75×43×90	
13	部屋の中の午後Ⅱ	1987年	ブロンズ	19×49×14	
14	部屋の中の午後Ⅰ	1980年	ブロンズ	77×49.5×59.5	
15	部屋の中の午後Ⅲ	2001年	ブロンズ	36.5×24×34	
第3章 旅する彫刻					
16	私考 ー通り風ー	1977年	ブロンズ	25.5×10×4.5	
17	旅・風の門Ⅲ	2002.3年	ブロンズ	50×85×40	第1回コンスタンチン・ブランクーシ賞大賞
18	旅・風の門Ⅰ	1991年	ブロンズ	27×36.5×23	
19	旅を続ける男Ⅳ	制作年不詳	杉・ブロンズ	59×70×27	
20	塔のある街Ⅰ	2010年	楠	52×49×20	
21	Story	1986年	楠・ブロンズ	16.5×57.5×30	
22	丘の上の街Ⅲ	2018年	楠	27×54×19	
23	旅・遺跡を巡る男Ⅲ	2011年	楠・ブロンズ	30×70×55	
24	旅Ⅰ	1990年頃	ブロンズ	35×46×22	
25	塔のある街Ⅱ	2010年頃	楠	39×30×15	
26	旅を続ける男Ⅴ	2010年頃	杉・ブロンズ	27×60×17	
27	続く旅	制作年不詳	ブロンズ	44.5×27×15	
28	旅・ひとりⅠ	制作年不詳	ブロンズ	26×35.5×26.5	
29	旅・ひとりⅡ	制作年不詳	ブロンズ	8×20×6	
■ 展示ホール					
30	旅・ひとりⅢ	制作年不詳	ブロンズ	74.5×21.2×17	
31	旅・遺跡を巡る男Ⅱ	2005年	ブロンズ	51×40×32	
32	旅Ⅱ	1993年	ブロンズ	62.5×42.5×17.5	
33	旅を続ける男Ⅰ	1995年	ブロンズ	63.5×39×18	
34	旅を続ける男Ⅱ	2007年	ブロンズ	69×60×32	
35	旅を続ける男Ⅲ	2007年	ブロンズ	197×70×70	
36	旅・遺跡を巡る男Ⅰ	1997年	ブロンズ	65×45×25	
37	ぶどう畑の雲Ⅱ	2007年	ブロンズ	25×47×26	
38	白い牛舎	2006年	ブロンズ	15×59×18	
39	旅・残された雪	2003年	ブロンズ	46×57×60	
40	丘の上の街Ⅰ	1999年	ホワイトブロンズ	15×24×10	
41	ぶどう畑の月Ⅲ	2006年	ブロンズ	32.5×21×19	
42	旅・山頂の雲	2002年	ホワイトブロンズ	14×25×11.5	
43	ぶどう畑の雲Ⅰ	2002年	ブロンズ	25×47×26	
44	ぶどう畑の月Ⅱ	2004年	ブロンズ	10.5×13×10.5	
45	旅・風の門Ⅱ	1993年	ブロンズ	41.5×61.5×17	
46	ぶどう畑の月Ⅰ	2003年	ブロンズ	40×45×30	
47	丘の上の街Ⅱ	2000年	ブロンズ	43×74×36	
48	ニワトリ	1985年	ブロンズ	46.5×40×23	
■ 常設展示室Ⅰ					
第4章 “心のかたち”を描く					
49	風のゆくえ	制作年不詳	ブロンズ	25.5×16×5.4	個人蔵
50	窓辺Ⅰ	制作年不詳	水彩・アクリル・パステル・紙	62.5×47.3	
51	部屋の中の午後	1988年	パステル・紙	56.2×44	
52	窓辺Ⅱ	制作年不詳	鉛筆・紙	52.5×41	
53	紫陽花	制作年不詳	鉛筆・水彩・紙	56×44	
54	蕎麦畑の丘	制作年不詳	鉛筆・紙	52.5×41	
55	庭の雪	制作年不詳	鉛筆・紙	36.5×44	
56	山の住まい	制作年不詳	水彩・アクリル・パステル・紙	47.5×62.5	
57	タスコ風景	1978年	パステル・紙	74.2×56.4	
58	塔のある街Ⅰ	1978年	パステル・紙	56.4×74.2	
59	塔のある街Ⅱ	制作年不詳	鉛筆・水彩・紙	30.5×39.5	
60	旅のスケッチ	制作年不詳	鉛筆・水彩・紙	30.5×39.5	
61	山Ⅰ	制作年不詳	鉛筆・紙	52.5×41	
62	山Ⅱ	制作年不詳	アクリル・パステル・紙	41×52.5	
63	遺跡	制作年不詳	水彩・アクリル・パステル・紙	61×46	
64	旅Ⅰ	制作年不詳	水彩・アクリル・紙	53×41	
65	続く旅	制作年不詳	パステル・紙	46×61	
66	旅・門	制作年不詳	水彩・アクリル・紙	32×26	
67	旅Ⅱ	制作年不詳	水彩・アクリル・紙	32×26	

リサとガスパールのおもいで展

会 期／令和4年4月29日(金・祝)～7月10日(日)
主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館
共 催／酒田市、酒田市教育委員会
企画・制作／オフィス渋谷
協 力／ソニー・クリエイティブプロダクツ、Hachette Livre
担 当／学芸主任 武内 治子
入場者数／8,922人

◎展覧会趣旨

アン・グットマンとゲオルグ・ハレンスレーベン夫妻によって、1999年にフランスで生まれた絵本『リサとガスパール』。パリに暮らす犬でもウサギでもない不思議なふたりの日常を描く「リサとガスパール」シリーズは、2000年に日本でも刊行が開始され、瞬く間に人気シリーズとなり、子どもだけでなく大人をも魅了し続けています。本展覧会では、絵本原画約120点や日本デビュー20周年を記念して特別に描き下ろされた作品、貴重な資料などを展示しました。

◎関連企画

「リサとガスパール」と一緒に写真を撮ろう！

日時 4月29日(金・祝)、30日(土)
午前10時、午後1時30分、午後3時
6月11日(土)、12日(日)、18日(土)
午前10時、午後2時
7月10日(日) 午前10時30分、午後2時
会場 エントランス

ワークショップ「Myうちバッグを作ろう！」

日時 5月8日(日) 午前10時～11時、午後2時～3時
会場 ミーティングルーム
講師 当館学芸員

0歳からの親子鑑賞会～はじめて！びじゅつかん～

日時 5月21日(土)、22日(日)
午前10時～11時、午後1時30分～2時30分
会場 ミーティングルーム
講師 富田めぐみ氏
(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)

こどものじかん

毎週木曜日は会場内に音楽が流れます。お子さんと会話を楽しみながら鑑賞ください。また、市内の小学校の児童たちが展示室で作品を鑑賞する“スクールプログラム”を行います。



「リサとガスパール」と一緒に写真を撮ろう！



0歳からの親子鑑賞会

版画・水彩画による平山郁夫 ～シルクロードと奥の細道～

会 期／令和4年7月16日(土)～8月28日(日)

主 催／公益財団法人さかた文化財団
酒田市美術館

共 催／酒田市、酒田市教育委員会

企画協力／公益財団法人平山郁夫美術館

担 当／学芸主幹 熱海 熱

入場者数／4,603人

◎展覧会趣旨

平山郁夫（1930－2009）は、仏教東漸の道と日本文化の源流を求めてシルクロードを百数十回にわたって旅をしました。平山氏が描くラクダのキャラバンは、平和な交易のシンボルとして、文化や宗教を伝えてきた存在として、平和の祈りの象徴でもあります。一方、歴史遺産が戦乱などによって破壊されていく姿を目の当たりにした平山氏は文化財保護活動を生涯にわたって続けました。

本展覧会は、平山郁夫がライフワークとして描いたシルクロードの世界を工房が制作した版画によって紹介しました。

また松尾芭蕉の「奥の細道」をたどる旅で制作した水彩画を、芭蕉の俳句と併せて紹介しました。



◎関連企画

ギャラリートーク

日時 7月16日(土)
午前10時30分、午後2時
会場 展示室
講師 幸野昌賢氏(平山郁夫美術館 学芸員)

学芸員によるギャラリートーク

日時 7月24日(日) 午前10時30分、午後2時
8月7日(日) 午後2時
会場 展示室
講師 当館学芸員

臨時ギャラリートーク

日時 8月6日(土) 午後1時30分
8月27日(土) 午後2時
8月28日(日) 午前10時40分
午後2時20分
午後3時20分
会場 展示室
講師 当館学芸員



幸野昌賢氏 ギャラリートーク



学芸員によるギャラリートーク



版画と水彩画による 平山郁夫 ～シルクロードと奥の細道～展 作品リスト

No.	作品名	制作年	技法	縦×横 (cm)	取材地
■ 第一展示室					
シルクロード					
1	西都長安大街	1979	版画	30.5×41.8	中国
2	敦煌	1990	版画	41×32	中国
3	敦煌莫高窟	1992	版画	38×53.5	中国
4	敦煌月光	1988	版画	31×43.5	中国
5	楼蘭	1993	版画	44.5×65	中国
6	楼蘭の夕	1993	版画	37×54	中国
7	楼蘭の月	1991	版画	36.5×53	中国
8	南海夕陽 海のシルクロード	1991	版画	45×65	中国
9	バミール高原を行く	2004	版画	40.5×60.5	ウイグル
10	朝陽砂漠 らくだ行	1998	版画	45.5×60.5	シルクロード キャラバン
11	月光砂漠 らくだ行	1998	版画	45.5×60.5	シルクロード キャラバン
12	拉薩郊外	1979	版画	28.8×40.5	チベット
13	アフガニスタンの少女	2005	版画	530×387	アフガニスタン
14	サールナートのストゥバ	1991	版画	25×33.5	インド
15	カシミールの女性	1983	版画	50×31	インド
16	タジマール 遠望	1989	版画	31×42	インド
17	紅衣の女性	1987	版画	52.5×38	インド
18	朝陽らくだ行	2002	版画	455×605	シルクロード キャラバン
19	月光らくだ行	2002	版画	455×605	シルクロード キャラバン
20	絲綢之路天空	1997	版画	45×96.8	シルクロード キャラバン
21	流砂・朝	1999	版画	46.6×100	シルクロード キャラバン
22	流砂・夜	1999	版画	46.6×100	シルクロード キャラバン
23	シリアの女性	1978	版画	40×32	シリア
24	ラホール月の夜	1993	版画	31×38.5	パキスタン
25	アンコールワットの遺跡 夕陽	1999	版画	46×97	カンボジア
26	皓月ブルーモスク イスタンブール	1999	版画	50×100	トルコ
■ 第二展示室					
奥の細道					
27	西行	—	日本画	26.4×17.8	—
28	塩竈神社本殿 奥州一の宮	1997	水彩画	45.5×60.5	宮城県
29	明けゆく松島	1991	日本画	37.9×45.5	宮城県
30	金華山の朝陽	1997	水彩画	45.5×60.5	宮城県
31	金華山 黄金山神社本殿	1997	水彩画	45.5×60.5	宮城県
■ 第三展示室					
奥の細道					
32	北上川と束稲山を高館義経堂から望む	2000	水彩画	45.5×60.5	岩手県
33	中尊寺 金色堂内陣	2000	水彩画	45.5×60.5	岩手県
34	立石寺の山 山寺	1997	水彩画	45.5×60.5	山形県
35	慈恩寺 宝蔵院表門	1997	水彩画	45.5×60.5	山形県
36	羽黒山神社 五重塔	1997	水彩画	45.5×60.5	山形県
37	湯殿山 仙人岳	1997	水彩画	45.5×60.5	山形県
38	天の川	—	日本画	27×36.5	—
39	永平寺の森	1966	大下図	73×130	福井県
—	病院の窓辺の花(パネル)	2009	複製	—	東京(絶筆)
■ 第四展示室					
それぞれのヒロシマ					
—	平山郁夫の昭和20年8月6日(パネル)	—	—	—	—
—	34年後に描いた広島(パネル)	—	—	—	—
—	平山郁夫の文化財保護活動(パネル)	—	—	—	—
40	懐中時計	1968	写真	—	広島(土門拳撮影)
41	史蹟原爆ドーム	1968	写真	—	広島(土門拳撮影)
42	広島平和記念公園	1957-1958	写真	—	広島(土門拳撮影)
43	原爆ドーム	1957-1958	写真	—	広島(土門拳撮影)
44	原爆ドームと元安川	1957	写真	—	広島(土門拳撮影)

<第四展示室について>

第四展示室では、平山郁夫氏の広島での「原爆の被爆体験」と「原爆を題材とした作品制作」、そして「文化財保護活動」について、解説パネルによりご紹介しています。平山氏の少年時代の被爆体験がその後の画家としての制作活動に大きな影響を与えたと思われます。この資料が本展の作品を鑑賞する際の参考になりましたら幸いです。尚、「ヒロシマ」を共通のテーマとして、写真家、土門拳の「ヒロシマ」作品も同時に展示しましたので、併せてご鑑賞頂けましたら幸いです。

2022年7月 酒田市美術館

※版画 ひとロメモ：版画作品には下記の表記がある場合があります。

E.A. (Epreuve d'artiste フランス語)→作家保存の作品

H.C. (Hors de Commerce フランス語)→非売品の作品

酒田市美術館・土門拳記念館共同企画 2つのまなざし 江成常夫と土門拳 ―ヒロシマ・ナガサキ―

会 期／令和4年9月3日(土)～10月16日(日)
主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館・土門拳記念館
共 催／酒田市、酒田市教育委員会
協 力／相模原市
担 当／学芸員 井上 瑠菜
入場者数／1,859人

◎展覧会趣旨

1957年、原爆の惨禍を撮影するために土門拳が広島を訪れました。戦後12年を経てもなお生々しい傷を抱える被爆者の姿や、過酷な手術の現場などを目の当たりにした土門は、翌年に写真集『ヒロシマ』を発表。国内外に大きな反響を呼びます。同作に大きな影響を受けた写真家の1人が、当時20代前半だった江成常夫です。江成はその後自身の仕事の文脈を「戦争の昭和」に定め、様々な被写体と向き合っていきます。その間、彼の中には常に被爆地への思いがありました。そして終戦から40年後の1985年、初めて広島に踏み入り、今日に至るまで綿密な取材や撮影を継続。どのように「被爆」を写真化するか問い続けた末、2019年の写真集『被爆 ヒロシマ・ナガサキ いのちの証』では、被爆地の遺品や遺構などの「モノ」のみを徹底的かつ克明に写し出しました。土門と江成が異なる時代に/異なる手法で表現してきた被爆の様相は、それぞれの視座から原爆の恐ろしさや平和への希求を重く深く訴えかけてきます。原爆投下から77年を経た現在も、世界では戦火が絶えません。本展における2人の写真家のまなざしが、戦争や平和を改めて考えていくきっかけになれば幸いです。

◎関連企画

記念フォーラム「江成常夫と土門拳が写した被爆」

日時 9月3日(土) 午後2時
会場 東北公益文科大学 公益ホール
第1部 基調講演「江成常夫作品に見る被爆」
講師 江成常夫氏(写真家)
第2部 対談「土門拳を巡って 弟子が語る人柄と作風」
パネラー 藤森武(写真家・土門拳記念館学芸担当理事)
堤勝雄(写真家・土門拳記念館理事)
司 会 村上幸太郎(さかた文化財団理事長)
第3部 パネルディスカッション「土門拳の作品をめぐる」
パネラー 江成常夫氏(写真家)
佐高信氏(評論家)
阿部博行氏(土門拳研究家)
司 会 石川好(酒田市美術館館長)

学芸員によるギャラリートーク

日時 9月10日(土)、10月15日(土)
午後2時～2時30分
会場 展示室
講師 当館学芸員



2つのまなざし 江成常夫と土門拳ーヒロシマ・ナガサキー 作品リスト

※()内の数値は、被爆者の
年齢や爆心地からの距離を指す

No.	タイトル	撮影年	撮影地	収蔵
■ 第一会場 企画展示室				
江成常夫 ナガサキ				
1	爆風で破壊された聖人像(500m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
2	三菱兵器トンネル工場跡の岩盤(2.3km)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
3	三菱兵器トンネル工場跡入口(2.3km)	2015年	長崎	相模原市民ギャラリー
4	三菱兵器製作所跡の遺構(1.2km)	2008年	長崎	相模原市民ギャラリー
5	姉が作った三敷猛(16)さんの腕章(1.2km)	2015年	長崎	相模原市民ギャラリー
6	被爆死した林典正(13)さんの手投げ鞆(1.3km)	2010年	長崎	相模原市民ギャラリー
7	被爆死した大石さんの学生服(100m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
8	藤本則光さんの右腕に刺さったガラス片(1.1km)	2019年	長崎	相模原市民ギャラリー
9	県庁が疎開した長崎県防空本部跡の壁(2.7km)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
10	県庁が疎開した長崎県防空本部跡(2.7km)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
11	県庁が疎開した長崎県防空本部跡(2.7km)	2009年	長崎	相模原市民ギャラリー
12	銭座町に残る防空壕跡(1.4km)	2015年	長崎	相模原市民ギャラリー
13	国宝福濟寺の焼け焦げた瓦(2.5km)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
14	倒壊し慰霊碑になった山王神社の鳥居(800m)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
15	閃光を受け刻印が消えた一本柱鳥居(800m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
16	樹齢4-500年の被爆した楠Ⅰ(800m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
17	樹齢4-500年の被爆した楠Ⅱ(800m)	2015年	長崎	相模原市民ギャラリー
18	長崎医大生大久保彰さんのゲートル片(700m)	2019年	長崎	相模原市民ギャラリー
19	倒壊した長崎医科大学の門柱(600m)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
20	閃光を受けた長崎医科大学の門柱(600m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
21	爆死した中野健一郎(9)さんの遺品(800m)	2010年	長崎	相模原市民ギャラリー
22	被爆した城山小学校の内部(500m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
23	城山小学校コンクリート壁の型枠(500m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
24	被爆した城山小学校の壁(500m)	2019年	長崎	相模原市民ギャラリー
25	山里小学校裏に残る防空壕跡(500m)	2009年	長崎	相模原市民ギャラリー
26	倒壊した土蔵の跡で見つかった壺(600m)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
27	焼け跡で見つかった家伝の銅鏡(500m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
28	爆風で吹き飛んだ瓦の破片(250m)	2015年	長崎	相模原市民ギャラリー
29	浦上天主堂の崩壊した石像の一部(500m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
30	高熱を受け変形したガラス瓶(800m)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
31	熱線を受け変形した牛乳瓶(400m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
32	国友さん宅の焼け跡で収拾したコップ(350m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
33	国友さん宅の焼け跡で収拾したカップ(350m)	2010年	長崎	相模原市民ギャラリー
34	被爆死した土屋勝吉さんの背広(1.3km)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
35	被爆死した金高つみさんの遺品(1km)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
36	被爆し行方不明になった中学生の水筒(500m)	2010年	長崎	相模原市民ギャラリー
37	溶けたガラスに付着した手の骨(100m)	2008年	長崎	相模原市民ギャラリー
38	爆風を受け異形化したガラス片(200m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
39	原爆炸裂の時を刻んだままの柱時計(2.8km)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
40	浦上天主堂焼け跡で見つかった被爆マリア像(500m)	2019年	長崎	相模原市民ギャラリー
41	原爆の惨禍を告げる聖人像(500m)	2015年	長崎	相模原市民ギャラリー
42	被爆した中国国籍、高木大佛さんの国防服(1.4km)	2010年	長崎	相模原市民ギャラリー
43	三菱兵器住吉トンネル工場跡(2.3km)	2015年	長崎	相模原市民ギャラリー
44	熱線を受け火ぶくれした屋根瓦(爆心地)	2010年	長崎	相模原市民ギャラリー
45	爆心地、松山町171番地の地層(爆心地)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
46	クロイド状に異形化したガラス瓶(360m)	2010年	長崎	相模原市民ギャラリー
■ 第二会場 展示ホール				
江成常夫 ナガサキ				
47	白骨のもとにあった大久保さんの懐中時計(300m)	2010年	長崎	相模原市民ギャラリー
48	収容者が爆死した浦上刑務支所の礎石(100m)	2019年	長崎	相模原市民ギャラリー
49	爆風を受け異形化したガラス片(200m)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
50	溶けて異形化した写真用のガラス乾板(100m)	2017年	長崎	相模原市民ギャラリー
51	熱線で溶けてオブジェ化した一升瓶(爆心地付近)	2015年	長崎	相模原市民ギャラリー
52	爆心地で収拾したガラスの溶解塊(爆心地)	2010年	長崎	相模原市民ギャラリー
53	鉄兜の裏に付着した頭蓋骨(爆心地付近)	2019年	長崎	相模原市民ギャラリー
54	持ち主がわからない人形(爆心地)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
55	被爆死した女性の無傷の防空頭巾(不明)	2015年	長崎	相模原市民ギャラリー
56	磚子と瓦礫の溶解塊(爆心地付近)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
57	熱線で異物と熔け合ったガラス塊(不明)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
58	左大腿部から摘出されたガラス片(不明)	2016年	長崎	相模原市民ギャラリー
59	浦上天主堂に近い被爆死者が眠る赤城墓地(500m)	2009年	長崎	相模原市民ギャラリー

No.	タイトル	撮影年	撮影地	収蔵
■ 第三会場 常設展示室 I				
土門拳 ヒロシマ				
60	原爆病院の患者たち 金時さん 左顔面醜形瘻痕植皮手術	1957年	広島	土門拳記念館
61	原爆病院の患者たち 金時さん 左顔面醜形瘻痕植皮手術	1957年	広島	土門拳記念館
62	原爆病院の患者たち 金時さん 左顔面醜形瘻痕植皮手術	1957年	広島	土門拳記念館
63	原爆病院の患者たち 入院生活(お母さん)	1957年	広島	土門拳記念館
64	原爆病院の患者たち 金時さん 左右下肢瘻痕攣縮植皮	1957年	広島	土門拳記念館
65	原爆病院の患者たち 金時さん(左顔面と両手に被爆した少女)	1957年	広島	土門拳記念館
66	原爆病院の患者たち 皮膚癌患者 沢田とし子さん 右側頸部皮膚癌	1957年	広島	土門拳記念館
67	原爆病院の患者たち 少年 前頭部醜形瘻痕切除縫合	1957年	広島	土門拳記念館
68	原爆病院の患者たち みつ子さん 左拇指及示指間瘻痕攣縮植皮	1957年	広島	土門拳記念館
69	原爆病院の患者たち みつ子さん 左拇指及示指間瘻痕攣縮植皮	1957年	広島	土門拳記念館
70	胎児だった少年 梶山健二君の死 死の二日前	1957年	広島	土門拳記念館
71	胎児だった少年 梶山健二君の死 死の二日前	1957年	広島	土門拳記念館
72	胎児だった少年 梶山健二君の死 健二君の弟	1957年	広島	土門拳記念館
73	胎児だった少年 梶山健二君の死 安置室	1957年	広島	土門拳記念館
74	胎児だった少年 梶山健二君の死 健二君の墓	1957年	広島	土門拳記念館
75	深い闇の世界で 盲児施設広島明成園 盲目の双生児	1957年	広島	土門拳記念館
76	深い闇の世界で 盲児施設広島明成園 盲目の双生児	1957年	広島	土門拳記念館
77	深い闇の世界で 盲児施設広島明成園 盲目の双生児	1957年	広島	土門拳記念館
78	深い闇の世界で 盲児施設広島明成園 母のない盲目の娘	1957年	広島	土門拳記念館
79	深い闇の世界で 盲児施設広島明成園 母のない盲目の娘	1957年	広島	土門拳記念館
80	十三年寝たきりの人 平本ツタさん	1957年	広島	土門拳記念館
81	十三年寝たきりの人 中村杉松さん	1957年	広島	土門拳記念館
82	十三年寝たきりの人 中村杉松さん	1957年	広島	土門拳記念館
83	被爆者同士の結婚 小谷夫婦	1957年	広島	土門拳記念館
84	被爆者同士の結婚 小谷夫婦	1957年	広島	土門拳記念館
85	被爆者同士の結婚 小谷夫婦(牡蠣養殖場で働く小谷さん)	1957年	広島	土門拳記念館
86	広島原爆病院病理学標本 全身の骸骨	1968年	広島	土門拳記念館
87	広島原爆病院病理学標本 腎臓癌 腎臓	1968年	広島	土門拳記念館
88	わたしの目をかえせ 福地トメ子さん	1968年	広島	土門拳記念館
89	わたしの目をかえせ 福地トメ子さん	1968年	広島	土門拳記念館
90	わたしの目をかえせ 福地さん一家	1968年	広島	土門拳記念館
91	わたしの目をかえせ 福地トメ子さん	1968年	広島	土門拳記念館
92	大野寮のこどもたち	1968年	広島	土門拳記念館
93	大野寮のこどもたち 紙箱づくり	1968年	広島	土門拳記念館
94	百合子ちゃん	1968年	広島	土門拳記念館
95	百合子ちゃん	1968年	広島	土門拳記念館
■ 第四会場 彫刻回廊				
土門拳 ヒロシマ				
96	原爆ドームと元安川	1957年	広島	土門拳記念館
97	広島平和記念資料館	1957年	広島	土門拳記念館
98	原爆慰霊碑	1957年	広島	土門拳記念館
99	西向寺墓地	1957年	広島	土門拳記念館
100	西向寺墓地	1957年	広島	土門拳記念館
101	懐中時計(針が吹き飛ばされた)	1957年	広島	土門拳記念館
102	史蹟原爆ドーム	1957年	広島	土門拳記念館



学芸員によるギャラリートーク



スクールプログラム



第77回県美展酒田巡回展・第64回こども県展

会 期／令和4年11月9日(水)～11月14日(月)
主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館、
山形新聞・山形放送・県美術連盟
共 催／酒田市、酒田市教育委員会
担 当／学芸員 井上 瑠菜
入場者数／1,716人

◎展覧会趣旨

本展は今年で77回目をかぞえる県内では最大の公募展であり、県内在住の芸術家たちの創作発表の場として、長年地域の芸術文化の振興に大きな役割を果たしてきました。

庄内地方からも毎年多くの入選者が出ており、今年の酒田巡回展では、日本画・洋画・彫刻・工芸の4部門で、入賞5名、入選31名、無鑑査・委嘱8名の方々を含む、総点数135点が展示されました。

また県美展と同時期に開催される「第64回こども県展」には、318点の作品が展示されました。



77

令和4年度県民芸術祭特別参加



第77回県美展酒田巡回展

令和4年

11月9日(水) — 11月14日(月)

会期中無休

■第64回こども県展

会場 酒田市美術館

〒998-0055 山形県酒田市駅前山3丁目17-95 TEL 0234-31-0095

開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

観覧料 一般 550円(440円) 高校生 270円(220円)

中学生以下は無料 (中学生は20名以上の団体料金)

お得な年間券も利用できます。(1年間有効で3,300円 3名まで観覧可)

主催 公益財団法人さかた文化財団酒田市美術館/山形新聞/山形放送/県美術連盟

共催 酒田市/酒田市教育委員会

●県美展

日本画

入 選 長谷川 静/鶴岡市

入 選 池田 優子/酒田市

入 選 基理 勉/酒田市

入 選 阿部 昌子/鶴岡市

無 鑑 査 佐々木 隆/酒田市

委 嘱 金内 隆/鶴岡市

入 選 佐藤 欣吾/鶴岡市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

入 選 根上 達哉/酒田市

入 選 小松原 茂/酒田市

入 選 白崎 祐子/酒田市

入 選 西崎 幸/鶴岡市

入 選 若生 久/鶴岡市

入 選 佐藤新代子/鶴岡市

入 選 藤澤 憲三/鶴岡市

入 選 熊田 俊光/鶴岡市

入 選 五十嵐ひろ子/鶴岡市

委 嘱 小林 功/鶴岡市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 今野 穂/酒田市

入 選 斎藤 正憲/酒田市

入 選 山崎 隆弘/酒田市

入 選 加藤 孟/酒田市

入 選 佐々木 隆/酒田市

入 選 菅原 美香/酒田市

入 選 佐藤 次雄/酒田市

入 選 佐藤 育生/酒田市

入 選 鈴木香代子/酒田市

渡辺おさむ お菓子の美術館

会 期／令和4年11月19日(土)～令和5年1月22日(日)

主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田美術館

共 催／酒田市、酒田市教育委員会

協 力／渡辺おさむアトリエ

企 画／M&Mcolor

担 当／学芸主任 武内 治子

入場者数／8,250人

◎展覧会趣旨

渡辺おさむは、樹脂などを材料に本物そっくりに作られた“スイーツ”を使い、デコレーションするスイーツデコの技術をアートに昇華させた現代美術作家です。

思わずたべたくなるようなホイップクリームやマカロン、キャンディなどカラフルな“スイーツ”を用いて、動物や建築物の模型にデコレーションを施し、可愛く気品溢れる作品を創り出しています。また、ロダン《考える人》やフェルメール《真珠の耳飾りの少女》など、有名な絵画や彫刻も渡辺おさむの手にかければ、美味しそうな作品へと変化します。本展覧会では、酒田の赤ちゃん獅子をデコレーションした《スイーツ獅子頭-blue cream-》、《スイーツ獅子頭-pink cream-》など、酒田ならではの作品も登場しました。

◎関連企画

渡辺おさむギャラリートーク・サイン会

日時 11月19日(土) 午前11時、午後2時

会場 展示室 講師 渡辺おさむ氏(現代美術家)

渡辺おさむワークショップ「クリスマスオーナメントを作ろう」

日時 11月20日(日) 午前11時、午後2時

会場 ミーティングルーム 講師 渡辺おさむ氏(現代美術家)

おしゃべりなアート鑑賞会

日時 11月27日(日)、12月4日(日)

午前11時～11時30分、午後2時～2時30分

会場 展示室 講師 当館学芸員

ぬいぐるみお泊り会 (お預かり)

日時 11月26日(土)、12月11日(日) 午前11時

ぬいぐるみお泊り会 (お迎え&鑑賞会)

日時 12月3日(土)、12月17日(土) 午後2時

会場 ミーティングルーム 講師 当館学芸員

美術館deゲーム大会

日時 1月4日(水) 午後2時～3時

会場 ミーティングルーム

講師 当館学芸員

Myうちバッグを作ろう！

日時 1月7日(土) 午後2時～3時

会場 ミーティングルーム

講師 当館学芸員



いいいろいろ展「世界をいろどる」

会 期／令和4年9月22日(木)～9月29日(木) 26日(月)休館

会 場／酒田市出羽遊心館

主 催／酒田市、酒田市教育委員会

共 催／やまがたアートサポートセンター ら・ら・ら、

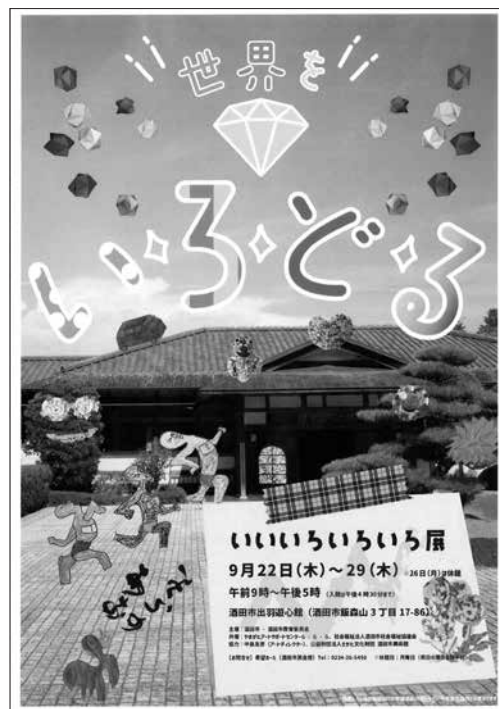
社会福祉法人酒田市社会福祉協議会

協 力／中島友彦氏(アートディレクター)、酒田市美術館

協力団体／医療法人山容会 山容病院、障がい者サポートセンター あらた、
NPO法人 酒田市障がい者福祉会、NPO法人 みらいず、共
同生活事業所 仲町ホーム、和光園共同生活事業所 なご
み、和光園共同生活事業所 ふきのとう、就労継続支援B型
しろくま、障がい者支援施設 光風園、障がい者支援施設 和
光園、庄内障害者就業・生活支援センター サポートセンタ
ーかでる、生活介護センター ふれあい、多機能型事業所
ohana、多機能型事業所 くじら、多機能型事業所 ふれん
ず、放課後等ディサービス ならはし、山形県立酒田特別支
援学校

担 当／学芸主任 武内 治子

入場者数／716人



◎展覧会趣旨

今年で5回目を迎える「いいいろいろ展」。

今回は『世界をいろどる』をテーマに、酒田市の障がいのある方のアート作品、約160点が出羽遊心館に集合しました。

展示にあたっては、どんな展示にしたいか？どうしたら作品の魅力が伝わるか？について、出展団体のみなさんと一緒に考えながらつくり上げました。

個性の詰まったたくさんの作品たちが出羽遊心館をあざやかに彩る一週間。



ミライニ(酒田市立中央図書館)との連携事業

まち×アートをテーマにトークセッション「ときめくSAKATART」

日 時／令和4年8月28日(日) 午後2時～3時30分
会 場／酒田駅前交流拠点施設ミライニ 1階リビング周辺
主 催／酒田駅前交流拠点施設ミライニ(酒田市立中央図書館)
講 師／原高史氏(東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科教授)
武内治子(酒田市美術館学芸主任)
田中耕太郎(酒田市土門拳記念館学芸員)
参加人数／30人



◎展覧会趣旨

東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科教授原高史氏、酒田市美術館、土門拳記念館の学芸員とともにArtによるまちづくりの可能性を探るトークセッションを開催。

第1回 美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ

「アフターコロナの集客方法／ 集客できるチラシ、SNSの活用法」

日 時／令和4年8月17日(水) 午前10時30分～午後5時
会 場／市民ギャラリー
講 師／熊谷淳一氏(株式会社ノイエ)
参加人数／20人



R
4

第2回 美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ

「コレクションの活用法／ミュージアムグッズの可能性 『もっと知りたい! ミュージアムグッズの世界』」

日 時／令和4年10月7日(金) 午後2時～午後5時
会 場／市民ギャラリー
講 師／大澤夏美氏
参加人数／26人



庄内教育事務所との連携事業

「読書推進連携講座」

えほんとアートでおかしの世界へ!

日 時／令和4年12月10日(土)
午前9時30分～11時20分、午後1時30分～3時20分
会 場／展示ホールステージ
講 師／丸山恵氏、高橋恵子氏(おはなしユニット「ごっこ」)、武内治子(学芸主任)
参加人数／41人



1. 展覧会事業 (3) 常設展示／令和4(2022)年度

《市民ギャラリー》

1期 令和5年2月1日～2月14日 酒田飽海地区子ども美術展

《エントランス》

1期 令和5年1月28日～3月12日 【陶芸逸品展】荒川豊蔵作品

《企画展示室》

1期 令和5年1月28日～3月12日 【陶芸逸品展】朴英淑、板谷波山 他

《展示ホール》

1期 令和5年1月28日～3月12日 【陶芸逸品展】北大路魯山人 他

《常設展示室Ⅰ》

1期 令和5年1月28日～3月12日 【陶芸逸品展】朴英淑、酒井田柿右衛門 他

《常設展示室Ⅱ》

1期	令和4年3月19日～7月10日	【新田嘉一コレクション 黒川能】 森田茂、大井康之
2期	令和4年7月16日～7月21日	【新田嘉一コレクション】 森田茂、大井康之
3期	令和4年7月25日～10月16日	【新田嘉一コレクション ～珠玉のフランス絵画を中心に～】 ベルナール・ビュッフェ、ベルナール・カトラン 他
4期	令和4年10月30日～令和5年1月22日	【新田嘉一コレクション】 森田茂、大内田茂士 他
5期	令和5年1月28日～2月14日	【新田嘉一コレクション】 森田茂、真下慶治 他
6期	令和5年2月21日～3月12日	【新田嘉一コレクション】 森田茂、福沢一郎 他

《回廊》

1年を通して 令和4年4月1日～ 【酒田市所蔵作品】 高橋剛作品



酒田飽海地区子ども美術展



高橋剛作品

◇ワークショップ

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
リサとガスパールの おもいで展	5月8日(日) ①午前10時～11時 ②午後2時～3時	「Myうちバッグを作ろう!」 講師: 武内治子(学芸主任)、井上瑠菜(学芸員) 会場: ミーティングルーム	30人
渡辺おさむ お菓子の美術館	11月20日(日) ①午前11時 ②午後2時	「クリスマスオーナメントを作ろう」 講師: 渡辺おさむ氏(現代美術家) 会場: ミーティングルーム	21人
	令和5年1月4日(水) 午後2時～3時	「美術館deゲーム大会」 講師: 武内治子(学芸主任)、井上瑠菜(学芸員) 会場: ミーティングルーム	3人
	令和5年1月7日(土) 午後2時～3時	「Myうちバッグを作ろう!」 講師: 武内治子(学芸主任)、井上瑠菜(学芸員) 会場: ミーティングルーム	7人

◇ギャラリートーク

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
心のかたち 彫刻家・峯田義郎展	3月19日(土) 午後2時～3時	「対談ギャラリートーク 峯田義郎×担当学芸員」 講師: 峯田義郎氏(彫刻家)、井上瑠菜(学芸員) 会場: 美術館内	35人
版画・水彩画による 平山郁夫 ～シルクロードと 奥の細道～	7月16日(土) ①午前10時30分 ②午後2時	「ギャラリートーク」 講師: 幸野昌賢氏(平山郁夫美術館 学芸員) 会場: 美術館内	50人
	7月24日(日) ①午前10時30分 ②午後2時	「ギャラリートーク」 講師: 熱海熱(学芸主幹) 会場: 美術館内	56人
	8月6日(土) 午後1時30分	「臨時ギャラリートーク」 講師: 熱海熱(学芸主幹) 会場: 美術館内	16人
	8月7日(日) 午後2時	「ギャラリートーク」 講師: 熱海熱(学芸主幹) 会場: 美術館内	22人
	8月27日(土) 午後2時	「臨時ギャラリートーク」 講師: 熱海熱(学芸主幹) 会場: 美術館内	21人
	8月28日(日) ①午前10時40分 ②午後2時20分 ③午後3時20分	「臨時ギャラリートーク」 講師: 熱海熱(学芸主幹) 会場: 美術館内	63人
2つのまなざし 江成常夫と土門拳 ーヒロシマ・ナガサキー	9月10日(土) 午後2時～2時30分	「ギャラリートーク」 講師: 井上瑠菜(学芸員) 会場: 美術館内	19人
	10月15日(土) 午後2時～2時30分	「ギャラリートーク」 講師: 井上瑠菜(学芸員) 会場: 美術館内	4人
渡辺おさむ お菓子の美術館	11月19日(土) ①午前11時 ②午後2時	「ギャラリートーク」 講師: 渡辺おさむ氏(現代美術家) 会場: 美術館内	39人
	11月27日(日) ①午前11時～11時30分 ②午後2時～2時30分	「おしゃべりなアート鑑賞会」 講師: 武内治子(学芸主任) 会場: 美術館内	16人
	12月4日(日) ①午前11時～11時30分 ②午後2時～2時30分	「おしゃべりなアート鑑賞会」 講師: 武内治子(学芸主任) 会場: 美術館内	24人

◇記念フォーラム・顕彰式典

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
2つのまなざし 江成常夫と土門拳 ーヒロシマ・ナガサキー	9月3日(土) 午後2時	第1部 基調講演「江成常夫作品に見る被爆」 講師:江成常夫氏(写真家) 第2部 対談「土門拳を巡って 弟子が語る人柄と作風」 パネラー:藤森武(写真家・土門拳記念館学芸担当理事)、堤勝雄(写真家・土門拳記念館理事) 司会:村上幸太郎(さかた文化財団理事長) 第3部 パネルディスカッション「土門拳の作品をめぐって」 パネラー:江成常夫氏(写真家)、佐高信氏(評論家)、阿部博行氏(土門拳研究家) 司会:石川好(酒田市美術館館長) 会場:東北公益文科大学 公益ホール	100人

◇その他企画

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
心のかたち 彫刻家・峯田義郎展	3月19日(土) 午前9時30分～10時	「開幕式」 会場:エントランス	40人
	3月20日(日) ①午後1時～2時 ②午後3時～4時	「アートツアー 自分の“こころのかたち”発見!」 講師:峯田さゆり氏(東京渋谷 和々 nana gallery) 会場:美術館内	20人
	4月3日(日) 午後2時～3時15分	阿蘇孝子さんによる詩の朗読会 「詩人 高瀬靖の詩を読む」 出演:朗読 阿蘇孝子氏(酒田詩の朗読会主宰) ギター 佐々木正氏、お話 高瀬靖氏、箏 高瀬克子氏 会場:市民ギャラリー	54人
リサとガスパールの おもいで展	4月29日(金・祝)、30日(土) ①午前10時 ②午後1時30分 ③午後3時	「リサとガスパールと一緒に写真を撮ろう!」 会場:エントランス	65組
	5月21日(土)、22日(日) ①午前10時～11時 ②午後1時30分～2時30分	「0歳からの親子鑑賞会～はじめまして!びじゅつかん～」 講師:富田めぐみ氏(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表) 会場:ミーティングルーム	41人
	6月11日(土)、12日(日)、 18日(土) ①午前10時 ②午後2時	「リサとガスパールと一緒に写真を撮ろう!」 会場:エントランス	79組
	7月10日(日) ①午前10時30分 ②午後2時	「リサとガスパールと一緒に写真を撮ろう!」 会場:エントランス	31組
渡辺おさむ お菓子の美術館	11月19日(土) ①午前11時 ②午後2時	「サイン会」 講師:渡辺おさむ氏(現代美術家) 会場:エントランス	39人
	11月26日(土) 午前11時	「ぬいぐるみお泊り会(お預かり)」	5人
	12月3日(土) 午後2時	「ぬいぐるみお泊り会(お迎え&鑑賞会)」 講師:武内治子(学芸主任) 会場:ミーティングルーム	5人
	12月11日(日) 午前11時	「ぬいぐるみお泊り会(お預かり)」	5人
	12月17日(土) 午後2時	「ぬいぐるみお泊り会(お迎え&鑑賞会)」 講師:武内治子(学芸主任) 会場:ミーティングルーム	7人

【「教職員視察ウィーク」の実施】（期間中の教職員に対する入館料減免とアンケートの記入）

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
リサとガスパールの おもいで展	5月9日～5月15日	酒田市内の保育園・幼稚園・小中高等学校・特別支援学校・産業技術短期大学校庄内校・東北公益文科大学に勤務する教職員（臨時職員、講師でも可）の入館料を減免し、アンケートに答えてもらう。	20人
2つのまなざし 江成常夫と土門拳 ーヒロシマ・ナガサキー	9月3日～9月9日		1人
酒田市美術館収蔵品展 アートトリップ！	令和5年1月28日～2月4日 休館日1月30日		中止

◇スクールプログラム/主催：酒田市教育委員会

展覧会名等	学校名・学年	日 時	参加人数
リサとガスパールの おもいで展	琢成小学校・2年	5月12日(木)9:00～10:15	36名
	泉小学校・2年	5月12日(木)10:30～11:30	48名
	松山小学校・3、4年	5月12日(木)13:30～14:30	28名
	西荒瀬小学校・4年	5月19日(木)9:25～10:10	26名
	黒森小学校・3、4年	5月19日(木)10:40～12:00	17名
	泉小学校・3年	5月19日(木)14:00～15:00	56名
	一條小学校・2年	5月26日(木)9:00～10:00	13名
	西荒瀬小学校・1年	5月26日(木)10:40～11:25	20名
	琢成小学校・4年	5月26日(木)13:20～14:50	22名
	平田小学校・2年	6月2日(木)9:10～10:10	19名
	浜田小学校・2年	6月2日(木)10:30～11:30	31名
	富士見小学校・4年	6月2日(木)14:00～15:00	26名
	琢成小学校・3年	6月9日(木)9:00～10:15	30名
	松陵小学校・2年	6月9日(木)10:45～11:45	26名
	泉小学校・4年	6月9日(木)14:00～15:00	47名
	松陵小学校・3年	6月16日(木)10:45～11:45	48名
	富士見小学校・4年	6月16日(木)14:00～15:00	28名
	浜中小学校・3、4年	6月23日(木)9:00～10:20	24名
	黒森小学校・1、2年	6月23日(木)10:40～12:00	19名
	亀ヶ崎小学校・2年	6月23日(木)13:30～14:30	27名
	平田小学校・1年	6月30日(木)9:10～10:10	28名
	浜中小学校・1、2年	6月30日(木)10:30～12:00	22名
	南平田小学校・4年	6月30日(木)13:30～14:30	34名
	西荒瀬小学校・3年	7月7日(木)10:40～11:25	48名
	亀ヶ崎小学校・2年	7月7日(木)13:30～14:30	49名
2つのまなざし 江成常夫と土門拳 ーヒロシマ・ナガサキー	第二中学校・1年	10月4日(火)10:15～11:15	32名
	浜中小学校・5、6年	10月14日(金)	21名
渡辺おさむ お菓子の美術館	平田小学校・3年	令和5年1月12日(木)9:00～10:00	22名
	琢成小学校・5年	令和5年1月12日(木)10:45～11:45	30名
	第六中学校・1年	令和5年1月18日(水)9:00～10:00	57名
		令和5年1月18日(水)11:00～12:00	
	十坂小学校・6年	令和5年1月18日(水)13:55～15:00	29名
	第六中学校・1年	令和5年1月19日(木)9:00～10:00	66名
		令和5年1月19日(木)11:00～12:00	

3. 市民ギャラリー利用状況 令和4(2022)年度

展覧会名	会期	会期日数	入館者数
アトリ絵の会作品展「思いのままに…」	令和4年4月18日(月)～4月24日(日)	7日	573
第26回筆翠会会員展	令和4年7月19日(火)～7月24日(日)	6日	357
第21回東邦書道会庄内支部会展	令和4年8月3日(水)～8月7日(日)	5日	360
第30回酒田如月水墨画会展	令和4年9月12日(月)～9月18日(日)	7日	240
「アート感覚で楽しむ布ワーク」展	令和4年9月21日(水)～9月25日(日)	5日	314
庄内文化センター写真教室 写真展	令和4年9月28日(水)～10月2日(日)	5日	328
革・糸・布・遊び	令和4年10月11日(火)～10月16日(日)	6日	641
第66回酒田市民美術展	令和4年10月30日(日)～11月5日(土)	7日	717
やまがた百名山写真展	令和5年2月22日(水)～3月7日(火)	14日	807
9展示		62日間	4,337人



アトリ絵の会作品展「思いのままに…」



第26回筆翠会会員展



第21回東邦書道会庄内支部会展



第30回酒田如月水墨画会展



「アート感覚で楽しむ布ワーク」展



庄内文化センター写真教室 写真展



革・糸・布・遊び



第66回酒田市民美術展



やまがた百名山写真展

4. 入館状況 令和4(2022)年度

展覧会名	会期	一般	高校生	小・中学生	会員券・招待 視察等	計 (人)
心のかたち 彫刻家・峯田義郎展	令和4年3月19日～4月24日	520	7	37	1,260	1,824
リサとガスパーのおもいで展	4月29日～7月10日	3,914	77	749	4,182	8,922
版画・水彩画による平山郁夫 ～シルクロードと奥の細道～	7月16日～8月28日	2,092	36	165	2,310	4,603
2つのまなざし 江成常夫と土門拳 ーヒロシマ・ナガサキー	9月3日～10月16日	805	11	21	1,022	1,859
第77回県美展酒田巡回展・ 第64回こども県展	11月9日～11月14日	670	5	206	835	1,716
渡辺おさむ お菓子の美術館	11月19日～令和5年1月22日	3,328	95	1,081	3,746	8,250
新田嘉一コレクション 陶芸逸品展	1月28日～3月12日	830	4	17	2,834	3,685



スクールプログラム研修会



ワークショップ オリジナルバッグを作ろう



記念フォーラム パネルディスカッション



江成常夫顕彰式典



酒田飽海教育研究所図工美術部会研修会



新田嘉一コレクション展



常設展示室



羽黒高校職場体験



酒田市立第三中学校職場体験



鶴岡東高職場体験

酒田市美術館特別展「天童市美術館収蔵品 熊谷守一 いのちを描く」 作品リスト

No	作者名	作品名	制作年	寸法	材質・技法	所蔵先	備考
■【序章】エントランスホール							
1	土門拳	庭に蓍を敷いて寝転がる守一	1948年	35.2×23.2	プリント	土門拳記念館	
2	土門拳	アトリエの床に座り振り向く守一	1948年	35.2×23.2	プリント	土門拳記念館	
■【第1章 画家としての出発】企画展示室							
3	熊谷守一	横向裸婦	1904年	33.4×24.2	板・油彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
4	熊谷守一	裸婦	1929年	33.0×23.6	板・油彩	天童市美術館寄託	
5	熊谷守一	裸婦	1931年	33.3×24.2	板・油彩	天童市美術館	
6	熊谷守一	少女	1938年	33.4×24.2	板・油彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
7	熊谷守一	裸婦	1943年	31.3×41.0	板・油彩	天童市美術館寄託 村山祐太郎コレクション	
8	熊谷守一	椅子にかける裸婦	1940年頃	32.4×24.7	板・油彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
9	熊谷守一	裸婦	1949年頃	33.0×23.6	板・油彩	天童市美術館寄託	
10	熊谷守一	草人	1955年	31.0×40.0	板・油彩	天童市美術館寄託	
11	熊谷守一	裸立像	1959年	33.0×23.5	板・油彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
12	熊谷守一	箱の上の裸女	1960年	33.3×24.3	板・油彩	天童市美術館寄託	
13	熊谷守一	裸婦	1962年	15.8×22.7	板・油彩	天童市美術館寄託	
14	熊谷守一	化粧	1972年	70.8×56.5	紙・シルクスクリーン	天童市美術館寄託 村山祐太郎コレクション	版元:ギャルリームカイ
15	熊谷守一	ボブラ並木	1919年	24.0×19.0	板・油彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
16	熊谷守一	風景	1930-40年頃	33.0×23.6	板・油彩	天童市美術館寄託	
17	熊谷守一	海岸風景	1935年	24.0×33.0	板・油彩	天童市美術館寄託 村山祐太郎コレクション	
18	熊谷守一	安良里港	1940年	27.3×45.5	板・油彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
19	熊谷守一	熱海	1948年	24.3×33.4	板・油彩	天童市美術館寄託	
20	熊谷守一	榛名湖	1954年頃	33.8×40.8	紙・油彩	天童市美術館寄託	
21	熊谷守一	五色沼	1956年頃	23.7×33.0	板・油彩	天童市美術館寄託	
22	熊谷守一	富士山	1958年	24.3×33.3	板・油彩	天童市美術館寄託	
■【第2章 描こうとしたもの】企画展示室							
23	熊谷守一	アンセリウム	1973年	33.2×24.0	板・油彩	天童市美術館寄託	
24	熊谷守一	ばら	1959年	33.2×24.2	板・油彩	天童市美術館寄託	
25	熊谷守一	ひまわり	1962年	33.2×24.0	板・油彩	天童市美術館寄託	
26	熊谷守一	梅雨(露)	1959年	32.0×41.9	画布・油彩	天童市美術館寄託	
27	熊谷守一	きのこ	1961年	24.2×33.3	カンバス・油彩	天童市美術館寄託	
28	熊谷守一	雪	1959年	31.5×41.0	カンバス・油彩	天童市美術館寄託	
29	熊谷守一	新神楽	年代不詳	36.0×41.0	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	
30	熊谷守一	牡丹	1963年	24.2×33.2	板・油彩	天童市美術館寄託	
31	熊谷守一	百日草	1989年	36.0×41.0	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:熊谷守一美術館
32	熊谷守一	蜂蝶	1973-74年	23.0×15.7	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:熊谷守一
33	熊谷守一	鬼百合に揚羽蝶	1987年	40.8×31.8	紙・リトグラフ	天童市美術館	版元:清和美術
34	熊谷守一	鬼百合に揚羽蝶	1964年	64.7×49.2	紙・多色刷りリトグラフ	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	版元:ギャルリームカイ
35	熊谷守一	仏前	1990年	49.0×56.6	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:熊谷守一美術館
36	熊谷守一	南無阿弥陀仏	1950年頃	135.0×34.5	紙本・墨書	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
37	熊谷守一	野菜	2001年	49.0×56.6	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:熊谷守一美術館
38	熊谷守一	仏画下絵	1984年	44×57	紙・シルクスクリーン	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	版元:熊谷守一美術館
39	熊谷守一	大巖寺の鶏の森	1947年	33.0×21.0	板・油彩	天童市美術館	
40	熊谷守一	稚魚	1958年	24.2×33.3	板・油彩	天童市美術館	
41	熊谷守一	稚魚群遊之図	1960年	24.3×33.3	板・油彩	天童市美術館	
42	熊谷守一	石亀	1976年	38.0×46.0	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:ギャルリームカイ
43	熊谷守一	桜	1997年	33.3×24.3	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:熊谷守一美術館
44	熊谷守一	桜	1972年	37.5×27.5	木版	天童市美術館	版元:加藤版画研究所
45	熊谷守一	はせ紅葉	1973-74年	31.3×41.0	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:ギャルリームカイ
46	熊谷守一	白仔猫	1992年	36.8×45.0	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:熊谷守一美術館
47	熊谷守一	うさぎ	1965年	35.5×49.5	紙・油彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
48	熊谷守一	金魚	1940年頃	21.2×33.4	板・油彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
49	熊谷守一	村山祐太郎像	1947年	41.0×31.7	画布・油彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
50	熊谷守一	かもめ(表紙絵)	1961年	34.0×51.2	紙・水彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
51	熊谷守一	トンボ	1962年	24.0×33.0	紙本・着色	天童市美術館寄託 村山祐太郎コレクション	
52	熊谷守一	香合(ふくろう)	1973年	27.0×23.0	紙本・墨画	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	
53	—	守一が持っていた香合(ふくろう)	—	—	—	天童市美術館	
54	熊谷守一	朝の日輪	1972年	50.0×65.0	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:ギャルリームカイ
55	熊谷守一	夕暮れ	1992年	36.8×45.0	紙・シルクスクリーン	天童市美術館	版元:熊谷守一美術館

No	作者名	作品名	制作年	寸法	材質・技法	所蔵先	備考
■【第3章 晩年の暮らし】展示ホール							
56	藤森武	顔	1974-76年	137.1×90.0	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	『独楽』(1976年、講談社P.25)
57	藤森武	画室	1974-76年	41.2×57.2	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	—
58	藤森武	画室	1974-76年	60.0×90.0	プリント	天童市美術館	『独楽』(1976年、講談社P.46-47)
59	藤森武	独楽	1974-76年	90.0×60.0	プリント	天童市美術館	『独楽』(1976年、講談社P.133)
60	藤森武	画室	1974-76年	57.2×41.2	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	『独楽』(2004年、世界文化社P.36)
61	藤森武	天狗の腰かけ	1974-76年	57.2×41.2	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	—
62	藤森武	天狗の腰かけ	1974-76年	57.2×41.2	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	『独楽』(1976年、講談社P.90)
63	藤森武	天狗の腰かけ	1974-76年	90.1×145.0	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	『独楽』(1976年、講談社P.70-71)
64	藤森武	独楽	1974-76年	57.2×41.2	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	『独楽』(1976年、講談社P.130)
65	藤森武	くらし	1974-76年	57.2×41.2	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	『独楽』(1976年、講談社P.110-111)
66	藤森武	独楽	1974-76年	41.2×57.2	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	『独楽』(1976年、講談社P.144-145)
67	藤森武	独楽	1974-76年	41.2×57.2	写真パネル	熊谷守一つけ記念館	『独楽』(1976年、講談社P.158-159)
68	—	守一が生前使っていた道具箱	—	—	道具箱	天童市美術館	
69	土門拳	パイプをくわえる守一	1948年	29.8×21.0	写真パネル	土門拳記念館	
70	熊谷守一	裸婦	1952年	30.0×26.7×23.3	ブロンズ	天童市美術館 村山祐太郎コレクション	

■【第4章 日本画と書の世界】常設展示室Ⅰ

71	熊谷守一	あざみに蟻	不詳	132.4×34.1	紙本・墨画淡彩	天童市美術館寄託 村山祐太郎コレクション
72	熊谷守一	蟻	不詳	31.8×41.0	紙本・着色	天童市美術館寄託
73	熊谷守一	赤蟻	不詳	38.0×48.0	紙本・着色	天童市美術館寄託
74	熊谷守一	赤蟻	不詳	37.7×23.2	紙本・墨書	天童市美術館寄託
75	熊谷守一	瓜に蠅	不詳	27.0×24.0	紙本・着色	天童市美術館寄託 村山祐太郎コレクション
76	熊谷守一	がま	不明	27.0×23.0	紙本・墨画淡彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
77	熊谷守一	さつまいも	不明	27.0×24.0	紙本・墨画淡彩	天童市美術館
78	熊谷守一	檜枯葉	1975年	19.0×46.0	紙本・墨画淡彩	天童市美術館
79	熊谷守一	我為人人人人爲我	1974年	153.0×212.0	紙本・墨書	天童市美術館
80	熊谷守一	天地自在	1950年頃	69.0×34.0	紙本・墨書	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
81	熊谷守一	心自閑	1970年頃	33.0×113.5	紙本・墨書	天童市美術館
82	熊谷守一	つばめ	1942年	37.5×50.7	紙本・墨画淡彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
83	熊谷守一	蟬・とんぼ	1940年代	158.5×149.6	紙本・墨画淡彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
84	熊谷守一	石仏	1940年代	38.0×51.0	紙本・墨画淡彩	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
85	熊谷守一	観音	1940年代	138.5×34.3	紙本・墨画	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
86	熊谷守一	種蒔き	1971年	50.0×39.4	紙本・墨画淡彩	天童市美術館
87	熊谷守一	茂吉短歌(かりがねも)	1974年	36.0×6.0	紙本・墨書	天童市美術館
88	熊谷守一	龍	1976年	33.0×24.0	紙本・墨画	天童市美術館



「モリのある場所」上映会



モリカズスケッチ

酒田市美術館・土門拳記念館連携企画 心に山ありて幸いなり 山岳写真家 白旗史朗展

会 期／令和5年4月29日(土・祝)～6月25日(日)
主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館
共 催／酒田市
企画協力／一般社団法人白旗史朗保存会
協 力／南アルプス山岳写真館・白旗史朗記念館、南アルプス市立美術館、南アルプス市芦安山岳館、フジフィルム スクエア、株式会社山と溪谷社、株式会社写真弘社、株式会社フレームマン、一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会
担 当／学芸主任 武内 治子
入場者数／3,830人

◎展覧会趣旨

白旗史朗（1933～2019）は、父が旧・八幡町（現・酒田市）出身だったことから、鳥海山を「父の山」と呼び、足しげく通って多くの写真を撮影した山岳写真家です。1951年に富士山の写真家・岡田紅陽に師事し、カメラ操作から始まり表現方法や写真の現像などのあらゆる技術を習得します。その後、1962年に「山だけを撮る写真家」として独立宣言をし、自分だけの「心の山」を追い求め世界や日本の山に挑み続けました。白旗は、四季折々に魅せる表情豊かな山の姿の中でもとりわけ、山にかかる「霧」や「雲」を生かした構図で、独自の表現方法を追求し、優麗な山の姿を撮影しました。

本展覧会は、没後初となる回顧展として、下積み時代のバリエの舞台写真から、ヨーロッパ・アルプスやヒマラヤなどの世界の名峰、南アルプスや富士山、鳥海山など日本の名峰、さらに尾瀬、高山植物などの写真を一堂に介し、白旗芸術の全貌に迫りました。

◎関連企画

益田幸郎氏講演会「白旗史朗とカナディアンロッキー」

日時 4月29日(土・祝) 午後2時～3時
会場 市民ギャラリー 講師 益田幸郎氏

ブロードベンチャーレーサー田中陽希氏講演会「鳥海山の魅力と日本三百名山について」

日時 5月3日(水・祝) 午後2時30分～3時30分
会場 市民ギャラリー 講師 田中陽希氏

こどもの日特別イベント「化石はどこから来たの？写真の中にひそむ地球の不思議」

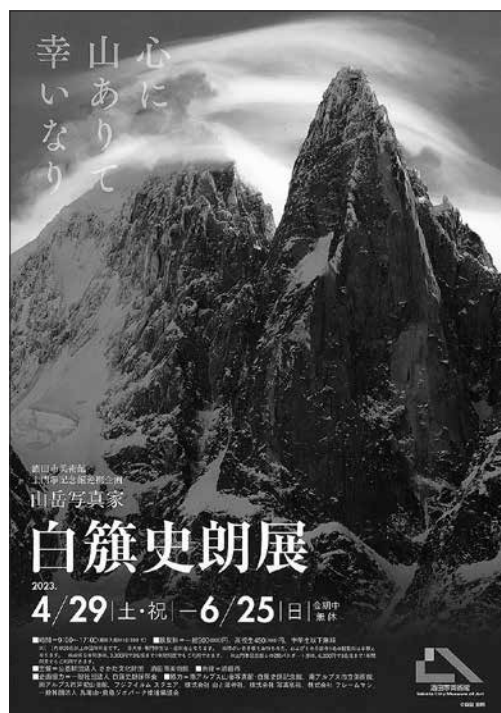
日時 5月5日(金・祝) 午前10時～11時、午後2時～3時
会場 展示室
講師 大野希一氏
(鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会事務局次長兼主任研究員)

萩原浩司氏(「山と溪谷社」取締役)によるギャラリートーク

日時 5月13日(土) 午前11時～12時、午後2時～3時
会場 展示室 講師 萩原浩司氏(「山と溪谷社」取締役)

赤沼健至氏(燕山荘グループ代表)講演会「北アルプスの魅力と白旗史朗について」

日時 6月4日(日) 午後2時～3時
会場 展示ホール 講師 赤沼健至氏(燕山荘グループ代表)



臨時ギャラリートーク

日時 6月17日(土)、25日(日) 午後2時
会場 展示室
講師 小谷哲朗氏(白旗史朗保存会)
当館学芸主任

中庭deゆる～いっ! ゆるキャン☆

期間 6月3日(土)～11日(日)
だいたい午前10時～だいたい午後3時
会場 中庭

酒田市美術館・土門拳記念館連携企画 山岳写真家 白旗史朗展 作品リスト

No	タイトル	撮影時期	撮影場所 ※撮影場所は作家による	寸法(mm)	初出品
■ エントランス					
1	高峰競いて燃える(エベレストとローツェの赤熱)	1980頃	ゴークョ・ピーク	2000×2500	
2	富士と北岳	不詳	仙丈ヶ岳	800×1000	
3	夏来る	2007.7.7	御浜	600×900	◎
4	桂川に架かる高月橋	1952	山梨県大月市	305×254	◎
5	猫と妹	1951	山梨県大月市	300×250	◎
6	アレクサンドラ・ダニロワ	1957.9.9	サンケイホール(東京)	300×250	◎
7	フレデリック・フランクリン	1957.9	サンケイホール(東京)	300×250	◎
8	オーロラ姫のソニア・アロワ	1956.9	日本劇場(東京)	300×250	◎
9	マーゴ・フォンテイン	1959.2	日比谷公会堂(東京)	270×225	◎
10	オーロラ姫のマーゴ・フォンテイン	1959.3.1	日比谷公会堂(東京)	270×225	◎
11	オデット姫のマーゴ・フォンテイン	1959.2.24	日比谷公会堂(東京)	270×225	◎
12	ケルンの夜明け【最初の雑誌掲載作品】	1959頃	甲斐駒ヶ岳	560×457	
13	甲斐駒ヶ岳のキレットから見た鳳凰三山	1959頃	甲斐駒ヶ岳	560×457	
14	北岳バットレス	不詳	赤坂沢ノ頭	300×250	
■ 第一展示室					
15	憧れの北岳をゆく	1960.7	北岳池山吊尾根	310×255	
16	北岳バットレス中央稜	1962.5	北岳	250×300	
17	シュカブラのかなたに	1962.1.1	間ノ岳から北岳	253×305	
18	雪の造型	不詳	小赤石の肩	305×255	
19	大鳥池暮照	不詳	以東岳	303×252	
20	春の鳥海山	1963.5上旬	鳥海山	270×253	◎
21	新山の斜面にて	1963.5上旬	鳥海山	255×305	◎
22	伏拝岳から河原宿の俯瞰	1963.5上旬	鳥海山	270×300	◎
23	西鳥海山	1963.5上旬	鳥海山	254×308	◎
24	東南稜5100mから見たマカルー	1970.3	マカルー東南稜	457×560	
25	マカルー東南稜残照	1970.3	マカルー東南稜B.C.	457×560	
26	朝のマカルー	1970.3	シブトン峠への稜線3800mピーク	457×560	
27	氷壁登攀	1970.3	C.1～C.2間のアイスフォール	457×560	
28	残月のチャムラン	1970	東南稜末端5100m	560×457	
29	C.4俯瞰	1970	C.4上部	457×560	
30	カンチェンジュンガ遠望	1970	C.4(7200m)	560×457	
31	山稜にのぞく	1981.4下旬	シェルシヨン	800×1000	
32	天空に翔け去らんとする光	1980.11中旬	アイランド・ピークからマカルー	457×560	
33	カンチェンジュンガ	1981	バンペマ	800×1000	
34	マカルーにかかる雲	1981.4下旬	シェルシヨン	2000×2500	
35	ジャヌー	1981.3中旬	シャルプー南東稜	2000×2500	
36	燃えるローツェ	1980頃	アイランド・ピーク	2000×2500	
37	ヌプツェとエベレスト	不詳	カラパタール	800×1000	
38	チェキゴ変幻	1981	トラム・パウ氷河	800×1000	
39	エベレストと月の出	不詳	チャングリ氷河	800×1000	
40	雲からむアンナプルナ南峰	1982	内院C.1	1000×800	
41	ダウラギリ	不詳	ブーンヒル	457×560	◎
42	夕映えのガンチェンボ	2008.11.20	ランタン谷	457×560	◎
43	夢幻の花園	1988.7下旬	ナンガバルバットB.C	560×457	◎
44	ライラ(左)とマルピティン	1989.7下旬	チョゴルンマ氷河	830×1030	
45	K2虚空に聳ゆ	1987.7下旬	ブロード・ピークB.C	830×1030	
46	ブライトホルンのぞく	不詳	メンリフェン(スイス)	800×1000	
47	ベルト針峰灼熱	不詳	ミディ針峰(フランス)	800×1000	
48	モン・ブラン晴天	不詳	ランデックス(フランス)	800×1000	
49	ドームの朝雲	不詳	ゴルナーグラート(スイス)	800×1000	
50	暁のアイガーとメンヒ	2009.7.5	グロース・シャイデック(スイス)	457×560	◎
51	モン・ブラン黎明	1978.3.10	アントレーヴ(イタリア)	457×560	
52	トレ・チメ・ディ・ラパレド	不詳	ドライ・チンネ・ヒュッテ付近(イタリア)	457×560	◎
53	グランド・ジョラスからの日の出	1978.3.8	ミディ針峰(フランス)	457×560	
54	マッターホルンと彩雲	1978.3.19	シュワルツゼー(スイス)	457×560	
55	マッターホルン倒影	1985.8	リッフェルゼー(スイス)	800×1000	
56	ベルト針峰とドリュ針峰	1978.2.21	レ・ブラ(フランス)	800×1000	◎
57	アイガー(右)とフィッシャーホルン(ベルナー・オーバーラント山群)	不詳	フィルスト(スイス)	800×1000	
58	マウント・ランドル倒映	4月上旬(年不詳)	バーミリオン・レイク(カナダ)	800×1000	
59	アッシニボイン	1993.4上旬	レイク・メイゴック北岸(カナダ)	1000×800	
60	赤石岳春日	不詳	小赤石岳	800×1000	
61	絢爛の山稜	8月上旬	北岳から間ノ岳	800×1000	
62	雪煙燃え立つ	不詳	北岳稜線から中白峰	800×1000	
63	シュカブラの彼方に	不詳	仙丈ヶ岳から北岳	800×1000	
■ 第二展示室					
64	マウント・ロブソン	1993.4下旬	バーグ・レイク北方山麓(カナダ)	1500×2000	
65	サンバースト・ピークとマウント・アッシニボイン	1992.6下旬	ナブレット(カナダ)	1500×2000	
66	新雪に明ける	不詳	夜叉神峠から農鳥岳	1000×800	
67	花崗岩の山稜	不詳	観音岳から地藏岳	800×1000	
68	冬の北岳	不詳	北岳池山吊尾根	457×560	
69	夕映えの塩見岳	2007.2	三伏山	457×560	◎
70	黎明の北岳	1975.8.21	間ノ岳	457×560	
71	仙丈ヶ岳動雲	不詳	北岳稜線	2000×2500	
72	厳冬の稜線	1月上旬	北岳	2000×2500	
73	巻積雲の朝焼け	不詳	千枚岳	950×2660	

No	タイトル	撮影時期	撮影場所 ※撮影場所は作家による	寸法(mm)	初出品
74	黄金富士	2月中旬	高坐山	2000×2500	
75	光るシュカブラ	不詳	北岳稜線	1000×800	
76	富士、雪白く、茶の香り高し	2013.4.27	富士市今宮	560×457	◎
77	山稜の彼方に	不詳	西農鳥岳	800×1000	
78	湧き立つ雲	不詳	朝霧高原	800×1000	
79	湖上の朝	不詳	本栖湖	800×1000	
80	輝く雲海(山並みへだてて)	1975.8	北岳	800×1000	
81	桜と富士	不詳	新倉山浅間公園	457×560	
82	富士、気高くあり	1995.3.27	大蔵高丸	457×560	
83	富士端麗	11月下旬	三ッ峠山	800×1000	

■ 第三展示室

84	夏来る	不詳	尾瀬ヶ原中田代	800×1000	
85	光る木道	不詳	尾瀬ヶ原コシツ堀田代	800×1000	
86	秋来る尾瀬ヶ原	不詳	尾瀬ヶ原中田代	800×1000	
87	ミズバショウ咲く	不詳	尾瀬ヶ原中田代	800×1000	
88	雲海輝く朝	不詳	小至仏山	800×1000	
89	岩木山	1999頃	南麓から	710×870	
90	大朝日岳	不詳	寒江山から	710×870	
91	蔵王山	不詳	熊野岳登山道から	710×870	
92	蔵王の樹氷	不詳	蔵王	457×560	◎
93	ガスに隠れる大同心峰	不詳	赤岳鉱泉付近	457×560	◎
94	霧氷の燕岳山稜	不詳	燕山荘付近	950×2670	
95	花崗岩の国のイマージュ	不詳	燕岳山稜	560×457	
96	秋の山肌	2002.10中旬	御浜	600×900	◎
97	静穏な花園	2007.7.6	御浜	600×900	◎
98	ニッコウキスゲに風騒ぐ	2007.7.20	御浜	600×900	◎
99	冬の到来	1999.11上旬	御浜	900×600	◎
100	夕照	1999.11上旬	御浜	900×600	◎
101	星夜	1999.11上旬	御浜	900×600	◎

■ 第四展示室

102	オコジョⅠ	不詳	槍ヶ岳	356×432	◎
103	オコジョⅡ	不詳	槍ヶ岳	356×432	◎
104	北岳と対峙するライチョウ	不詳	中白峰	432×356	
105	つがいのライチョウ	不詳	小赤石岳北斜面	356×356	
106	ハクサンイチゲ	1991.7.10	北岳	356×356	◎
107	キタダケソウ	不詳	北岳	432×356	
108	チョウカイフスマ	1994.8.9	鳥海山	356×432	◎
109	ミヤマダイコンソウ	1994.8.6	鳥海山	356×432	◎
110	日本海の落日とコバイケイソウ	2007.7.6	鳥海山御浜	432×356	◎
111	ヒダカソウ	不詳	アボイ岳	356×356	◎
112	ホテイラン	1967.5.28	北岳吊尾根	432×356	◎
113	ヤクシマシャクナゲ	1995.6	屋久島・黒味岳	356×432	◎
114	THE LAST WORK 白馬岳山稜の夏	2015.7.15	三国境付近	457×560	◎



展示風景



プロアドベンチャーレーサー田中陽希氏講演会



益田幸郎氏講演会



こどもの日特別イベント 大野希一氏



赤沼健至氏講演会



中庭deゆる〜いっ! ゆるキャン☆

サンリオデザイナーのおしごと展

会 期／令和5年7月1日(土)～8月27日(日)
主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館
共 催／酒田市
企 画／株式会社サンリオ
担 当／学芸主任 武内 治子
入場者数／16,114人

◎展覧会趣旨

サンリオは1960年の創業以来450をこえるキャラクターデザインを生み出してきました。その中にはハローキティのように50年近く活躍している大人気のキャラクターもいます。

そんなヒットキャラクターをサンリオはどのように作ってきたのでしょうか？

また、なぜサンリオキャラクターは長く愛されるのでしょうか？

このギモンのヒントとなるのが「ファンの存在」です。サンリオキャラクターの特徴は、ファンの心に寄り添い、ファンと一緒にキャラクターを育てていく、そんなサンリオ独自の手法にあります。

本展覧会では、はじめて製作サイドに焦点を当て、初期のデザイン原画や制作秘話、グッズなどの貴重な資料を展示し、サンリオキャラクターの変遷をたどりながら、長く愛され続けているヒミツを探りました。

◎関連企画

サンリオカフェワゴンがやってくる！

日時 サンリオクレプ号 7月1日(土)、2日(日)
ビッグスマイル号 8月19日(土)、20日(日)
午前10時～午後4時30分
会場 美術館大駐車場(南側)

キングシナモンと一緒に写真を撮ろう！

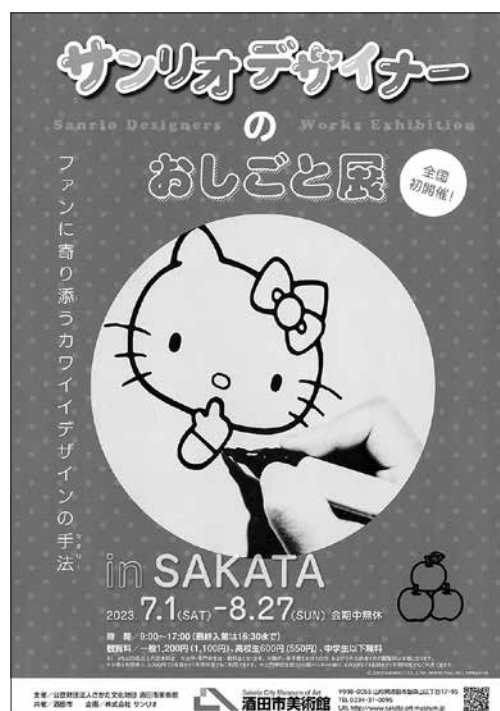
日時 7月16日(日) 午前10時、午後1時30分、午後3時
会場 エントランス

ワークショップ「シナモロールの素焼き絵付け作り」

日時 7月23日(日)、8月13日(日)
午前10時30分～11時30分、午後2時～3時
会場 ミーティングルーム
講師 当館学芸員

ギャラリートーク

日時 8月11日(金・祝) 午前10時、午後2時
会場 展示室
講師 高桑秀樹氏(サンリオいちご新聞元編集長)
加藤明子氏(元いちごのお姉さん、有限会社チアーズ代表)





展示風景



1万人達成セレモニー



サンリオカフェワゴン



キングシナモンと一緒に写真を撮ろう！



シナモロールの素焼き絵付け作り



高桑秀樹氏×加藤明子氏ギャラリートーク

石黒光二 彫刻展 一心・空間・かたち

会 期／令和5年9月2日(土)～10月22日(日)
主 催／公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館
共 催／酒田市、酒田市教育委員会
協 力／株式会社クリップ・ボード、彫刻家石黒光二後援会
担 当／学芸員 井上 瑠菜
入場者数／2,314人

◎展覧会趣旨

石黒光二氏（1952年-）は、酒田市山谷（旧平田町）出身の彫刻家です。多摩美術大学彫刻科卒業後、同市出身作家・高橋剛（1921-1991）に師事。1975年の第5回日彫展、1976年の第8回日展にそれぞれ初出品し、現在に至るまで出品を続けています。1993年には日彫展西望賞、2016年には日展内閣総理大臣賞を受賞するなど、彫刻界で高い評価を受けています。また、全国の野外彫刻も多数手掛け、中でも地元酒田市に設置されている作品は庄内の自然と人々の暮らしのなかに溶け込み、地域の方々に親しまれています。

石黒氏は、人物と幾何形態を組み合わせた塑像による心象表現によって、空間との調和やかたちそのものに宿る美しさを追求めてきました。本展では、初期作品から近年発表された新たな作品約50点を一堂に会し、人物と幾何形態によって生み出される心象空間の世界を紹介しました。

◎関連企画

石黒光二彫刻展 開会式

日時 9月2日(土) 午前9時30分
会場 エントランス

作家ギャラリートーク

日時 9月2日(土) 午前11時～12時
10月22日(日) 午後2時～3時
会場 展示室 講師 石黒光二氏(彫刻家)

石黒光二彫刻作品を巡るバスツアー (ひらた文化祭実行委員会主催)

日時 9月3日(日) 午前9時～午後2時30分
集合場所 酒田市美術館
会場 平田各所・酒田市美術館

学芸員によるギャラリートーク

日時 9月17日(日)、10月8日(日) 午後2時～3時
会場 展示室
講師 当館学芸員

身体表現ワークショップ「からだでつながる鑑賞会」

日時 9月18日(月・祝)
午前10時45分～12時、午後1時45分～3時
会場 市民ギャラリー
講師 菊地将晃氏(ダンサー/toall代表)



秋分の日イベント 初めてのえんぴつデッサン会

日時 9月23日(土・祝) 午前9時30分～12時
会場 ミーティングルーム
講師 阿部昌子氏
(アトリエOne絵画教室講師、白鷺社会員)

平日の美術館でゆったりデッサン会

日時 9月25日(月)、10月4日(水)
午前10時～午後4時
会場 展示室

彫刻体験ワークショップ

日時 10月15日(日) 午後1時30分～3時
会場 飯森山公園もくもく館
講師 池田瑞穂氏(山形県美術連盟会員)

石黒光二 彫刻展 一心・空間・かたちー 作品リスト

No	作者名	作品名	制作年	寸法(cm)	材質	備考
■ エントランスホール						
1	石黒光二	迷夢(めいむ)	2006年	H120×W80×D100	樹脂	第36回日彫展出品
2	石黒光二	旅の空	2000年	H71×W90×D55	樹脂	第30回日彫展出品
3	石黒光二	風のピエロ	2003年	H50.5×W84.5×D20	樹脂	第33回日彫展出品
4	石黒光二	追想(ついで)	2019年	H68×W25×D32	樹脂	第49回日彫展出品
5	石黒光二	憶(おく)	2021年	H60×W26×D17	樹脂	第50回記念日彫展出品
6	石黒光二	流れゆく時	2022年	H64×W19×D32	樹脂	第51回日彫展出品
7	石黒光二	いにしへの夢	1999年	H81×W50×D52	樹脂	第29回日彫展出品
■ 企画展示室						
8	石黒光二	風待月(かぜまちづき)	1994年	H157×W47×D73	樹脂	第24回日彫展出品
9	石黒光二	あこがれ	1982年頃	H120×W65×D55	樹脂	
10	石黒光二	夢につつまれ	1993年	H126×W50×D75	樹脂	第23回日彫展出品 日彫展西望賞受賞
11	石黒光二	抒情詩(じょじょうし)	2019年	H143×W110×D40	樹脂	改組 新 第6回日彫展出品
12	石黒光二	輪廻(りんね)	2009年	H137×W47×D29	樹脂	第41回日彫展出品
13	石黒光二	慈愛(じあい)	2017年	H124×W80×D50	樹脂	改組 新 第4回日彫展出品
14	石黒光二	予感	2002年	H172×W51×D35	木彫(楠)	第34回日彫展出品
15	石黒光二	やすらぎ	2008年	H127×W75×D40	樹脂	第40回日彫展出品
16	石黒光二	祈り	2022年	H179×W63×D41	樹脂	第9回日彫展出品
17	石黒光二	間 -はざま-	2006年	H119×W44×D23	樹脂	第36回日彫展出品
18	石黒光二	月光	2016年	H220×W85×D43	樹脂	改組 新 第3回日彫展 内閣総理大臣賞
19	石黒光二	0空間(ぜろくうかん)	2000年	H210×W90×D40	樹脂、ステンレス	第32回日彫展出品 総理官邸賞出品
20	石黒光二	響(ひびき)	1988年	H205×W60×D50	石膏	第18回日彫展出品
21	石黒光二	幻想曲	2003年	H120×W46×D28	樹脂	第35回日彫展出品
22	石黒光二	旅人	1986年	H180×W60×D45	樹脂	第16回日彫展出品
23	石黒光二	旅の終りに	2021年	H127×W63×D73	樹脂	第8回日彫展出品
24	石黒光二	望郷(ぼうきょう)	2001年	H118×W40×D32	樹脂	第33回日彫展出品
25	石黒光二	かもめ	1998年	H128×W68×D33	樹脂	第28回日彫展出品
■ 展示ホール						
26	石黒光二	かたらい	1984年	H63×W45×D25	石膏	
27	石黒光二	翼	2018年	H88×W73×D44	樹脂	第48回日彫展出品
28	石黒光二	風に舞う	2020年	H200×W90×D70	樹脂	改組 新 第7回日彫展出品
29	石黒光二	夢幻(むげん)	1995年	H190×W60×D43	樹脂	第27回日彫展出品
30	石黒光二	幻華(げんか)	1998年	H215×W55×D50	樹脂	第30回日彫展出品、日展会員賞 総理官邸賞出品
31	石黒光二	幻	1995年	H190×W72×D45	樹脂	第25回日彫展出品
32	石黒光二	久遠(くおん)	2010年	H157×W38×D65	樹脂	第42回日彫展出品
33	石黒光二	久遠Ⅲ	2018年	H193×W91×D38	樹脂	改組 新 第5回日彫展出品
34	石黒光二	久遠Ⅱ	2012年	H193×W75×D85	樹脂	第44回日彫展出品
35	石黒光二	嘆きの天使	2013年	H105×W57×D36	樹脂	第43回日彫展出品
■ 常設展示室 I						
36	石黒光二	雨あがり	1980年頃	H51×W17×D10	ブロンズ	
37	石黒光二	ひまわり	1978年頃	H56×W17×D9	樹脂	
38	石黒光二	翔(しょう)	1978年頃	H64×W55×D25	樹脂	
39	石黒光二	夏の日	2013年	H50×W33×D11	ブロンズ	
40	石黒光二	宙の詩(そらのうた)	1999年	H49.5×W59.5×D19	ブロンズ	
41	石黒光二	ほおづえ	2004年	H75×W30×D55	樹脂	第34回日彫展出品
42	石黒光二	夢空間 I	2001年	H63×W27×D13.5	ブロンズ	
43	石黒光二	陽だまりの午後	2011年	H62×W27×D46	樹脂	第41回日彫展出品
44	石黒光二	抒情詩	2009年	H82×W64×D18	樹脂	第39回日彫展出品
45	石黒光二	風のソナタ	2016年	H57×W56×D24	樹脂	第46回日彫展出品
46	石黒光二	迷夢Ⅲ	2008年	H60×W90×D19	樹脂	第38回日彫展出品
47	石黒光二	迷夢Ⅱ	2007年	H90×W45×D23	樹脂	第37回日彫展出品
48	石黒光二	夢空間2023	2023年	H59×W47×D15	樹脂	第52回日彫展出品
49	石黒光二	緑の季節	2017年	H33×W34×D32	ブロンズ	第47回日彫展出品
50	石黒光二	流れる風に	1997年	H70×W100×D25	樹脂	第27回日彫展出品
51	石黒光二	夢空間Ⅲ	2014年	H76×W50×D18	樹脂	第44回日彫展出品
52	石黒光二	いにしえ	2010年	H20×W37×D17	ブロンズ	



開会式



開会式



展示風景



石黒光二氏ギャラリートーク



学芸員によるギャラリートーク



彫刻体験ワークショップ



初めてのえんぴつデッサン会



バスツアー



スクールプログラム



スクールプログラム

画業50周年 一瞬間の“煌めき”中島潔 令和の心を女性に描く 作品リスト

No	タイトル	製作年	画寸	素材・技法
----	------	-----	----	-------

■ 第一展示室

【第一部】ふるさとの情景—四季の詩—

1	花童	2013	490×720	ケント紙に水彩
2	早春の詩	2014	510×728	ケント紙に水彩
3	春風の夢	2017	255×335	ケント紙に水彩
4	春風と蝶	2015	350×510	ケント紙に水彩
5	花童の詩	2015	350×510	ケント紙に水彩
6	温かい日	2016	490×720	ケント紙に水彩
7	桜坂の雨	2014	510×728	ケント紙に水彩
8	廃屋の春	2016	490×720	ケント紙に水彩
9	老木の春	2016	490×720	ケント紙に水彩
10	新しい春	2018	500×720	ケント紙に水彩
11	桜橋の夢	2017	485×715	ケント紙に水彩
12	早春の陽だまり	2019	490×715	ケント紙に水彩
13	水辺の春	2013	715×900	和紙に岩絵具・顔彩
14	安曇野・光城山の桜	2013	1150×790	和紙に岩絵具・顔彩
15	枯岩松の春	2017	500×720	ケント紙に水彩

夏の詩

16	子猫	2015	350×500	ケント紙に水彩
17	花言葉	2013	490×720	ケント紙に水彩
18	夏の駅	2013	490×720	ケント紙に水彩
19	夢ゆらめき	2018	245×335	ケント紙に水彩
20	雨音の詩	2016	280×380	ケント紙に水彩
21	倒木と童	2015	500×740	ケント紙に水彩
22	童の小倉祇園太鼓	2015	793×1157	和紙に岩絵具・顔彩
23	雨上がりの詩	2017	500×720	ケント紙に水彩
24	雨あがり	2019	490×716	ケント紙に水彩
25	羽音	2016	490×720	ケント紙に水彩
26	潮風	2016	490×720	ケント紙に水彩
27	あじさい橋の紙飛行機	2021	500×720	ケント紙に水彩
28	さざ波	2016	350×490	ケント紙に水彩
29	オオムラサキ	2016	490×720	ケント紙に水彩
30	大漁旗	2019	490×716	ケント紙に水彩

秋の詩

31	mailbox	2014	350×500	ケント紙に水彩
32	峠のバス停	2013	490×720	ケント紙に水彩
33	風はあのふる里へ	2012	660×960	ケント紙に水彩
34	秋の音色	2013	520×750	ケント紙に水彩
35	バゲットを持つ少女	2013	348×448	ケント紙に水彩
36	少女とバゲット	2013	348×448	ケント紙に水彩
37	秋風の詩	2013	515×745	ケント紙に水彩
38	里の実り	2013	515×745	ケント紙に水彩
39	水面	2021	500×720	ケント紙に水彩

■ エントランス

40	夢渡る	2017	500×720	ケント紙に水彩
41	里山	2016	357×505	ケント紙に水彩
42	唐津くんち	2012	1220×1620	和紙に岩絵具・顔彩
43	かずら橋	2017	500×720	ケント紙に水彩
44	秋風の光る音色	2021	500×720	ケント紙に水彩
45	大漁	2010	738×1095	和紙に岩絵具・顔彩

■ 第二展示室

冬の詩

46	姉妹とマフラー	2013	347×497	ケント紙に水彩
47	雪降る日の待ち人	2014	358×515	ケント紙に水彩
48	大根の詩	2012	320×450	ケント紙に水彩
49	ひだまり	2013	490×720	ケント紙に水彩
50	新しい予感	2014	510×728	ケント紙に水彩
51	ベジタリアン	2015	500×740	ケント紙に水彩
52	獅子舞	2012	660×960	ケント紙に水彩
53	雪の忘れもの	2016	493×720	ケント紙に水彩
54	初雪	2011	500×700	ケント紙に水彩
55	老梅と雪	2016	493×720	ケント紙に水彩
56	新雪の散歩	2017	500×720	ケント紙に水彩
57	雪の日の詩	2016	493×720	ケント紙に水彩
58	少女の雪	2016	357×505	ケント紙に水彩
59	雪の椿坂	2016	357×505	ケント紙に水彩
60	峠の夕日	2020	500×720	ケント紙に水彩

No	タイトル	製作年	画寸	素材・技法
----	------	-----	----	-------

【第二部】女性美の情景—ひとときの美しさ—

61	風鈴	2002	390×545	和紙に岩絵具・顔彩
62	万葉舞花	2017	1900×990	和紙に岩絵具・顔彩
63	永久への言葉	2017	795×1155	和紙に岩絵具・顔彩
64	あゆの風	2004	333×455	ケント紙に水彩
65	向日葵のゆれる頃	2005	520×650	和紙に岩絵具・顔彩
66	笹の音	2017	330×500	ケント紙に水彩
67	向日葵	2002	450×750	和紙に岩絵具・顔彩
68	懐かしい風	2018	350×270	ケント紙に水彩
69	朱ふたひら	2017	360×510	和紙に顔彩・パステル
70	mail	2012	440×635	和紙に岩絵具・顔彩
71	朱ひとひら	2017	360×510	和紙に顔彩・パステル
72	紅葉	2007	350×500	ケント紙に水彩
73	実りの風	2017	715×905	和紙に岩絵具・顔彩
74	都忘れ	2018	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩
75	こいさん	2018	725×910	和紙に岩絵具・顔彩

■ 第三展示室(展示ホール)

【第三部】一瞬間の“煌めき” —令和の心を女性に描く—

76	白川女	2017	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩
77	杜氏	2021	1167×910	和紙に岩絵具・顔彩
78	刀鍛冶	2021	1167×910	和紙に岩絵具・顔彩
79	歌留多	2019	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩
80	人形浄瑠璃	2020	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩
81	ねぶた師	2020	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩
82	鷹匠	2018	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩
83	流鏝馬	2019	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩
84	北の国の風言葉	2021	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩
85	南の国の風言葉	2021	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩

【特別出品】

86	酒田舞娘	2023	990×1900	和紙に岩絵具・顔彩
----	------	------	----------	-----------

■ 第四展示室

50年の軌跡・近年代表作

87	月とかぐや姫	2005	800×1160	和紙に岩絵具・顔彩
88	新しい風	2011	500×700	ケント紙に水彩
89	茜雲	2011	798×1158	和紙に岩絵具・顔彩
90	心音 夢の音色	2015	978×1890	和紙に岩絵具・顔彩

特別企画 令和の未来は女性が創る

91	蒼野甘夏 ミントウチカマイ	2021	1167×910	紙本彩色
92	尾崎慶子 バス停	2021	420×530	キャンバスに油彩
93	加藤美紀 春日	2021	1300×650	木製パネル、ワトソン紙にガッシュ
94	近藤智美 フリムンの踊り	2021	1167×910	キャンバスに油彩
95	島崎良平 雪中女子図	2021	812×1020	和紙に墨、アクリル、金泥、黒箔
96	宮崎優 夏至	2021	1000×652	天竺綿着彩
97	山岸千穂 背	2021	1000×803	紙本墨画



展示風景



展示風景



酒田舞娘演舞



中島潔と酒田舞娘



和菓子体験



和菓子体験

いいいろいろ展「のぞいてみよう、アートの裏側」

会 期／令和5年9月22日(金)～9月28日(木)
 会 場／出羽遊心館
 主 催／酒田市(酒田市文化芸術推進プロジェクト会議)
 共 催／やまがたアートサポートセンター ら・ら・ら

社会福祉法人酒田市社会福祉協議会
 協 力／中島友彦(アートディレクター)

公益財団法人さかた文化財団 酒田市美術館
 協力団体／医療法人 酒田東病院、医療法人山容会 山容病院、NPO法人
 酒田市障がい者福祉会、NPO法人 みらいず、共同生活事業
 所 仲町ホーム、障がい者サポートセンターあらた、障がい者
 支援施設 光風園、障がい者支援施設 和光園、障がい福祉サ
 ービス事業所 いっぱ、庄内障害者就業・生活支援センターサ
 ポートセンターかでる、生活介護事業所 あんだんてつむぎ、
 生活介護センター ふれあい、多機能型事業所 ohana、多機
 能型事業所 くじら、多機能型事業所 ふれんず、放課後等デ
 イサービス事業所 ならはし、山形県立酒田特別支援学校

担 当／学芸主任 武内 治子

入場者数／754人



◎展覧会趣旨

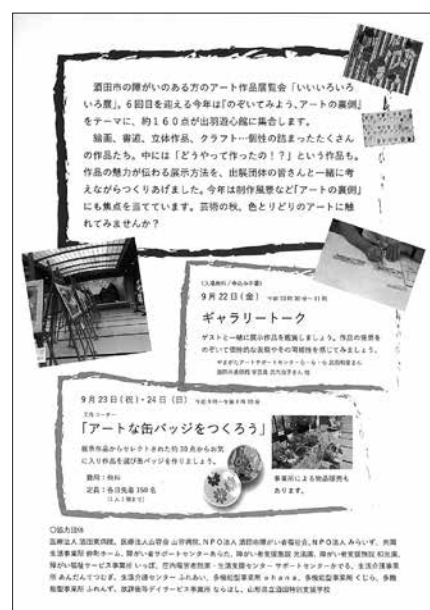
酒田市の障がいのある方のアート作品展覧会「いいいろいろ展」。6回目を迎える今年は『のぞいてみよう、アートの裏側』をテーマに、約160点が出羽遊心館に集合しました。

絵画、書道、立体作品、クラフト…個性の詰まったたくさんの作品たち。中には「どうやって作ったの!？」という作品も。作品の魅力が伝わる展示方法を、出展団体の皆さんと一緒に考えながらつくりあげました。今年は制作風景など「アートの裏側」にも焦点を当てました。

◎関連企画

ギャラリートーク

日時 9月22日(金) 午前10時30分～11時
 会場 出羽遊心館
 講師 武田和恵氏
 (やまがたアートサポートセンターら・ら・ら)
 武内治子
 (酒田市美術館 学芸主任) 他



第3回 美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ(最終回) 「文化施設の連携と職員同士の交流の場づくりについて」

日 時／令和5年9月21日(木) 午前10時40分～午後5時30分
 会 場／市民ギャラリー
 講 師／佐藤幸宏氏(札幌芸術の森美術館館長)、山田真規子(目黒区美術館学芸係長)
 参加人数／43人

1. 展覧会事業 (3)常設展示／令和5(2023)年度

《市民ギャラリー》

1期	令和6年1月31日～2月12日	酒田飽海地区子ども美術展
2期	令和6年2月18日～4月7日	【新田嘉一コレクション】 森田茂、大内田茂士 他

《エントランス》

1期	令和6年1月27日～3月10日	【収蔵品展】 斎藤長三作品 他
----	-----------------	-----------------

《企画展示室》

1期	令和6年1月27日～3月10日	【収蔵品展】 國領経郎作品、丸木位里作品 他
----	-----------------	------------------------

《展示ホール》

1期	令和6年1月27日～3月10日	【収蔵品展】 早川義孝作品、佐藤真生作品 他
----	-----------------	------------------------

《常設展示室Ⅰ》

1期	令和6年1月27日～3月10日	【収蔵品展】 斎藤正治作品、白旗史朗作品 他
----	-----------------	------------------------

《常設展示室Ⅱ》

1期	令和5年3月18日～6月25日	【新田嘉一コレクション】 森田茂、鈴木シン一 他
2期	令和5年7月1日～10月22日	【新田嘉一コレクション】 森田茂、加山又造 他
3期	令和5年10月29日～令和6年2月12日	【新田嘉一コレクション】 森田茂、佐藤公紀 他
4期	令和6年2月18日～4月7日	【新田嘉一コレクション】 円山応挙、黄胃 他

《回廊》

1年を通して	令和5年4月1日～	【酒田市所蔵作品】 高橋剛作品、峯田義郎作品
--------	-----------	------------------------



収蔵品展Ⅰ



収蔵品展Ⅰ スクールプログラム



収蔵品展Ⅱ

2. 教育普及事業 令和5(2023)年度

◇ワークショップ

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
天童市美術館収蔵品 熊谷守一 いのちを描く	4月16日(日) ①午前10時～11時30分 ②午後1時30分～3時	『モリカズスケッチ』 ～「かたち」から「いのち」を見つけよう～ 講師:ふるせしおり氏(作家) 会場:美術館内	11人
心に山ありて幸いなり 山岳写真家 白旗史朗展	5月5日(金・祝) ①午前10時～11時 ②午後2時～3時	『化石はどこから来たの? 写真の中にひそむ地球の不思議』 講師:大野希一氏(鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会事務局次長兼主任研究員) 会場:美術館内	16人
サンリオデザイナーの おしごと展	7月23日(日) ①午前10時30分～11時30分 ②午後2時～3時	『シナモロールの素焼き絵付け作り』 講師:武内治子(学芸主任)、井上瑠菜(学芸員) 会場:ミーティングルーム	24人
	8月13日(日) ①午前10時30分～11時30分 ②午後2時～3時	『シナモロールの素焼き絵付け作り』 講師:武内治子(学芸主任)、井上瑠菜(学芸員) 会場:ミーティングルーム	23人
石黒光二 彫刻展 -心・空間・かたち-	9月18日(月・祝) ①午前10時45分～12時 ②午後1時45分～3時	『からだでつながる鑑賞会』 講師:菊地将晃氏(ダンサー・toall代表) 会場:市民ギャラリー	15人
	9月23日(土・祝) 午前9時30分～12時	『初めてのえんぴつデッサン会』 講師:阿部昌子氏(アトリエOne絵画教室講師、白鷺社会員) 会場:ミーティングルーム	5人
	9月25日(月) 午前10時～午後4時	『平日の美術館でゆったりデッサン会』 会場:美術館内	4人
	10月4日(水) 午前10時～午後4時	『平日の美術館でゆったりデッサン会』 会場:美術館内	5人
	10月15日(日) 午後1時30分～3時	『彫刻体験ワークショップ』 講師:池田瑞穂氏(山形県美術連盟会員) 会場:飯森山公園もくもく館	4人
画業50周年 一瞬間の “煌めき”中島潔 令和の心を女性に描く	12月10日(日) ①午前10時～11時30分 ②午後1時～2時30分	『和菓子体験』 講師:おかしなおかしや 会場:喫茶モンマルトル	29人
	12月17日(日) 午前10時～11時	『美術鑑賞ボードゲーム「じっくりミレー」で遊ぼう!』 講師:武内治子(学芸主任) 会場:ミーティングルーム	5人

◇ギャラリートーク

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
天童市美術館収蔵品 熊谷守一 いのちを描く	3月19日(日) 午前10時30分～ 11時30分	「写真家・藤森武氏によるギャラリートーク」 講師:藤森武氏(写真家) 会場:美術館内	20人
	3月25日(土) 午後2時～3時	「ギャラリートーク」 講師:井上瑠菜(学芸員) 会場:美術館内	15人
	4月9日(日) 午後2時～3時	「ギャラリートーク」 講師:井上瑠菜(学芸員) 会場:美術館内	20人
	4月22日(土) 午後2時～3時	「ギャラリートーク」 講師:井上瑠菜(学芸員) 会場:美術館内	18人
心に山ありて幸いなり 山岳写真家 白旗史朗展	5月13日(土) ①午前11時～12時 ②午後2時～3時	「萩原浩司氏によるギャラリートーク」 講師:萩原浩司氏(山と溪谷社取締役) 会場:美術館内	65人
	6月17日(土) 午後2時	「臨時ギャラリートーク」 講師:小谷哲朗氏(白旗史朗保存会)、武内治子 (学芸主任) 会場:美術館内	15人
	6月25日(日) 午後2時	「臨時ギャラリートーク」 講師:小谷哲朗氏(白旗史朗保存会)、武内治子 (学芸主任) 会場:美術館内	20人
サンリオデザイナーの おしごと展	8月11日(金・祝) ①午前10時 ②午後2時	「ギャラリートーク」 講師:高桑秀樹氏(サンリオいちご新聞元編集 長)、加藤明子氏(元いちごのお姉さん、有限会 社チアーズ代表) 会場:美術館内	60人
石黒光二 彫刻展 -心・空間・かたち-	9月2日(土) 午前11時～12時	「作家ギャラリートーク」 講師:石黒光二氏(彫刻家) 会場:美術館内	46人
	9月17日(日) 午後2時～3時	「ギャラリートーク」 講師:井上瑠菜(学芸員) 会場:美術館内	15人
	10月8日(日) 午後2時～3時	「ギャラリートーク」 講師:井上瑠菜(学芸員) 会場:美術館内	10人
	10月22日(日) 午後2時～3時	「ギャラリートーク」 講師:石黒光二氏(彫刻家) 会場:美術館内	13人

◇その他企画

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
天童市美術館収蔵品 熊谷守一 いのちを描く	3月18日(土) 午後1時30分～3時	天童市美術館館長 池田良平氏による講演会 「熊谷守一を見つめて」 講師:池田良平氏(天童市美術館館長) 会場:市民ギャラリー	36人
	3月21日(火・祝) 午後1時30分～3時15分	映画上映会 「モリのいる場所」	40人
心に山ありて幸いなり 山岳写真家 白旗史朗展	4月29日(土・祝) 午後2時～3時	益田幸郎氏講演会 「白旗史朗とカナディアンロッキー」 講師:益田幸郎氏 会場:市民ギャラリー	32人
	5月3日(水・祝) 午後2時30分～3時30分	田中陽希氏講演会 「鳥海山の魅力と日本三百名山について」 講師:田中陽希氏 会場:市民ギャラリー	83人
	6月4日(日) 午後2時～3時	赤沼健至氏講演会 「北アルプスの魅力と白旗史朗について」 講師:赤沼健至氏(燕山荘グループ代表) 会場:美術館内	65人
サンリオデザイナーの おしごと展	7月1日(土) 7月2日(日) 午前10時～午後4時30分	サンリオカフェワゴンがやってくる！ 「サンリオクレープ号」 会場:美術館南側大駐車場	279人
	7月16日(日) ①午前10時 ②午後1時30分 ③午後3時	キングシナモンと一緒に写真を撮ろう！ 会場:エントランス	360人
	8月19日(土) 8月20日(日) 午前10時～午後4時30分	サンリオカフェワゴンがやってくる！ 「ビッグスマイル号」 会場:美術館南側大駐車場	293人
石黒光二 彫刻展 -心・空間・かたち-	9月2日(土) 午前9時30分	石黒光二 彫刻展-心・空間・かたち- 開会式	20人
	9月3日(日) 午前9時～午後2時30分	ひらた文化祭実行委員会主催 「石黒光二彫刻作品を巡るバスツアー」 会場:平田各所、酒田市美術館	25人
画業50周年 一瞬間の “煌めき”中島潔 令和の心を女性に描く	11月18日(土) 午前10時～10時30分	酒田舞娘演舞 出演者:酒田舞娘 会場:展示ホール	19人
	11月18日(土) ①午前10時45分～ 11時30分 ②午後1時～1時45分	中島潔氏サイン会 講師:中島潔氏(日本画家) 会場:エントランス	22人
新田嘉一コレクション 常設企画展 -日本の名品を中心に-	令和6年2月18日(日) 午後2時	新田嘉一コレクション常設企画展 -日本の名品を中心に- 開会式 会場:常設展示室Ⅱ	50人

【「教職員視察ウィーク」の実施】（期間中の教職員に対する入館料減免とアンケートの記入）

展覧会名等	日 時	内 容	参加人数
石黒光二 彫刻展 -心・空間・かたち-	9月2日～9月8日	酒田市内の保育園・幼稚園・小中高等学校・特別支援学校・産業技術短期大学校庄内校・東北公益文科大学に勤務する教職員（臨時職員、講師でも可）の入館料を減免し、アンケートに答えてもらう。	0人
画業50周年 一瞬間の “煌めき”中島潔 令和の心を女性に描く	11月18日～11月24日		3人
酒田市美術館収蔵品展 アートトリップ！	令和6年1月27日～ 2月3日 休館日：1月29日		2人

◇スクールプログラム/主催：酒田市教育委員会

展覧会名等	学校名・学年	日 時	参加人数
石黒光二 彫刻展 -心・空間・かたち-	黒森小学校・1、2年	9月14日(木)9:00～10:10	15名
	南平田小学校・6年	9月14日(木)10:30～11:30	35名
	黒森小学校・3、4年	9月21日(木)10:40～11:50	13名
	浜中小学校・	10月5日(木)10:30～12:00	18名
	南平田小学校・5年	10月19日(木)10:30～11:30	32名
画業50周年 一瞬間の “煌めき”中島潔 令和の心を女性に描く	浜中小学校・3、4年	11月30日(木)10:30～12:00	23名
	第六中学校・1年	令和6年1月11日(木)9:00～10:00	26名
	第六中学校・1年	令和6年1月11日(木)11:00～12:00	28名
	第六中学校・1年	令和6年1月18日(木)9:00～10:00	27名
	第六中学校・1年	令和6年1月18日(木)11:00～12:00	28名
酒田市美術館収蔵品展 アートトリップ！	琢成小学校・2年	令和6年2月1日(木)9:00～10:00	32名
	西荒瀬小学校・4年	令和6年2月1日(木)10:30～11:30	26名
	富士見小学校・4年	令和6年2月1日(木)14:00～15:00	27名
	亀ヶ崎小学校・2年	令和6年2月2日(金)9:00～10:00	26名
	亀ヶ崎小学校・2年	令和6年2月2日(金)10:40～11:40	27名
	富士見小学校・4年	令和6年2月2日(金)14:00～15:00	26名
	一條小学校・2年	令和6年2月7日(水)10:00～11:00	12名
	松原小学校・6年	令和6年2月8日(木)9:00～10:00	35名
	松原小学校・6年	令和6年2月8日(木)10:45～11:45	34名
	琢成小学校・3年	令和6年2月8日(木)13:40～14:40	35名
	泉小学校・4年	令和6年2月21日(水)10:00～11:00	49名
	浜田小学校・2年	令和6年2月21日(水)13:20～14:20	24名
	平田小学校・6年	令和6年2月22日(木)9:00～10:00	30名
	十坂小学校・6年	令和6年2月22日(木)13:40～14:25	35名
	亀ヶ崎小学校・2年	令和6年2月28日(水)9:00～10:00	26名
	亀ヶ崎小学校・4年	令和6年2月28日(水)10:40～11:40	26名
	平田小学校・1年	令和6年2月29日(木)9:00～10:00	24名
	浜中小学校・4、5年	令和6年2月29日(木)13:30～15:00	20名
	亀ヶ崎小学校・4年	令和6年3月6日(水)9:00～10:00	25名
	亀ヶ崎小学校・4年	令和6年3月6日(水)10:40～11:40	24名
	西荒瀬小学校・5年	令和6年3月7日(木)9:00～10:00	29名
	琢成小学校・6年	令和6年3月7日(木)13:40～15:00	73名



スクールプログラム研修会「じっくりミレーで遊ぼう」



酒田第三中学校職場体験



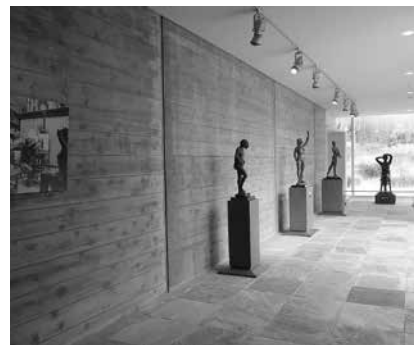
新田嘉一コレクション日本画名品展



第3回美術館出前型ゼミ



第3回美術館出前型ゼミ



彫刻回廊



彫刻回廊



博物館実習



博物館実習

3. 市民ギャラリー利用状況 令和5(2023)年度

展覧会名	会期	会期日数	入館者数
アトリ絵の会作品展 「アトリ絵の会 山居倉庫への想いを描く…」	令和5年4月17日(月)～4月23日(日)	7日	725
高田桂帆デザイン書展 「愛しき古郷 ありがとう ただいま」	令和5年5月10日(水)～5月14日(日)	5日	325
第19回菅原真理子キルトスクエア展	令和5年5月22日(月)～5月28日(日)	7日	1,030
第31回酒田如月水墨画会展	令和5年5月29日(月)～6月4日(日)	7日	336
佐藤充写真展「僕が見てきたミャンマー」	令和5年6月5日(月)～6月11日(日)	7日	417
篆刻・刻字 第27回筆翠会会員展	令和5年6月12日(月)～6月18日(日)	7日	289
さいとうゆきみ ポタニカルアート展	令和5年6月19日(月)～6月25日(日)	7日	972
第22回東邦書道会庄内支部会展	令和5年9月27日(水)～10月1日(日)	5日	328
第6回「美の会」現代書展・ジュニア書道展	令和5年10月4日(水)～10月8日(日)	5日	302
第67回酒田市民美術展	令和5年10月28日(土)～11月4日(土)	8日	857
山岳写真家 白旗史朗の百一名山	令和6年3月19日(火)～3月24日(日)	6日	431
11展示		71日間	6,012人



アトリ絵の会作品展



高田桂帆デザイン書展



第19回菅原真理子キルトスクエア展



第31回酒田如月水墨画会展



佐藤充写真展「僕が見てきたミャンマー」



篆刻・刻字 第27回筆翠会会員展



さいとう ゆきみ ポタニカルアート展



第22回東邦書道会庄内支部会展



第6回「美の会」現代書展・ジュニア書道展



第67回酒田市民美術展



山岳写真家 白旗史朗の百一名山

4. 入館状況 令和5(2023)年度

展覧会名	会期	一般	高・大学生	小・中学生	会員券・招待 視察等	計 (人)
天童市美術館収蔵品 熊谷守一 いのちを描く	令和5年3月18日～4月23日	853	13	53	1,305	2,224
心に山ありて幸いなり 山岳写真家 白旗史朗展	4月29日～6月25日	2,029	5	63	1,733	3,830
サンリオデザイナーのおしごと展	7月1日～8月27日	8,026	301	2,234	5,553	16,114
石黒光二 彫刻展 -心・空間・かたち-	9月2日～10月22日	948	1	38	1,327	2,314
第78回県美展酒田巡回展・ 第65回こども県展	11月8日～11月13日	649	4	183	970	1,806
画業50周年 一瞬間の“煌めき”中島潔 令和の心を女性に描く	11月18日～令和6年1月21日	1,306	9	64	2,090	3,469
酒田市美術館収蔵品展 アートトリップ!	1月27日～3月10日	1,111	12	69	3,435	4,627

R
5



酒田飽海地区子ども美術展



スクールプログラム

2022 2023
令和4年度～令和5年度

展覧会ポスター



心のかたち 彫刻家・峯田義郎展



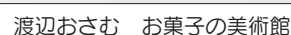
リサとガスパールのおもいで展



版画・水彩画による平山郁夫～シルクロードと奥の細道～



酒田市美術館・土門拳記念館共同企画
2つのまなざし 江成常夫と土門拳 ーヒロシマ・ナガサキー

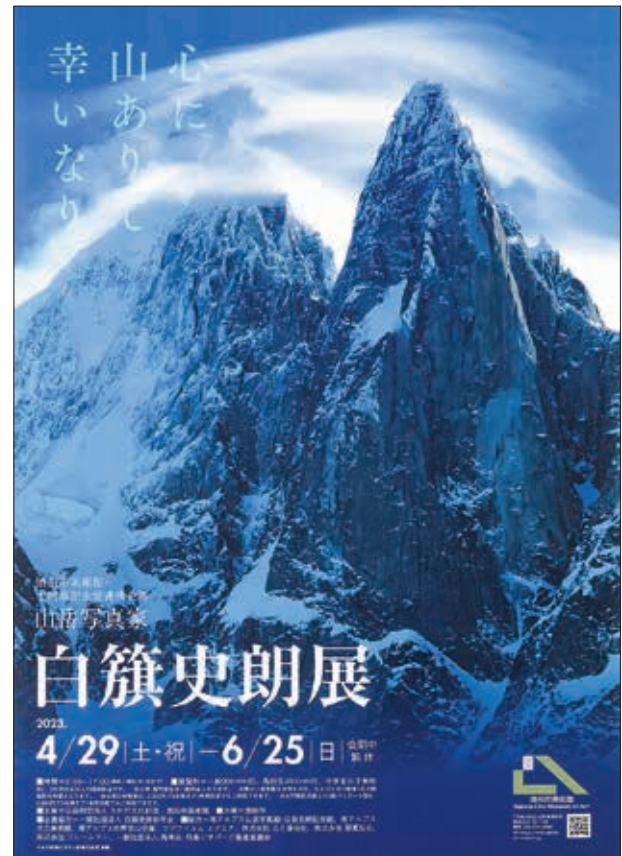


酒田市美術館・土門拳記念館共同企画 記念フォーラム
江成常夫と土門拳が写した被爆





天童市美術館収蔵品 熊谷守一 いのちを描く



心に山ありて幸いなり 山岳写真家 白旗史朗展



サンリオデザイナーのおしごと展



石黒光二 彫刻展 -心・空間・かたち-



第78回県美展酒田巡回展・第65回こども県展



画業50周年 一瞬間の“煌めき”
中島潔 令和の心を女性に描く

■ 収蔵品展 その他



酒田市美術館収蔵品展 アートトリップ！



新田嘉一コレクション常設企画展 ～日本画の名品を中心に～

令和4年度▶令和5年度

学芸員研究紀要

2022~2023

山岳写真家・白旗史朗の「山岳写真」について

酒田市美術館 学芸主任 武内 治子

1. はじめに

山岳写真家・白旗史朗（1933 - 2019）は、父が酒田市（旧・八幡町）出身であったことから、鳥海山を「父の山」と呼び、幾度となく足しげく通い、多くの写真を撮った酒田市にゆかりのある写真家である。白旗は、亡くなる1週間前に本市に対し、文化・芸術の振興の為に、鳥海山を撮影した写真データ100点の活用を承諾した。本市では、八幡総合支所が中心となり、写真データをパネル化する作業を進め、当館の市民ギャラリーで年1回程度展示するほか、八幡総合支所内での常設展示をし、広く市民に対して白旗の鳥海山の作品群を通して地域の魅力を発信し続けてきた。白旗が惜しくもこの世を去った後、本市と当館は、一般社団法人白旗史朗保存会のご協力のもと、何度も打ち合わせを重ねながら、白旗の功績を再度見つめ直す契機として、特別展の準備を進めた。そして、2023年4月29日(土)から6月25日(日)にかけて特別展『山岳写真家 白旗史朗展 心に山ありて幸いなり』を開催する運びとなった。

本論では、特別展の振り返りを行いながらその課題と成果を述べていく。また、白旗の山岳写真家としての長いキャリアの中でも、初期の仕事について注目し、「山岳写真家・白旗史朗」が形成されるまでの過程を追い、白旗の「山岳写真」について考察していきたい。

2. 特別展『山岳写真家 白旗史朗展』を振り返って

2023年に当館で開催した『山岳写真家 白旗史朗展 心に山ありて幸いなり』は、白旗芸術の全貌に迫る没後初の大規模な回顧展となった。本展では、白旗の生涯をかけた膨大な山岳写真の中から、厳選して113点を選定した。

本展は7章で構成し、内容は次のとおりである。

①白旗が山岳写真家として独立する以前の仕事を「写真との出会い・独立まで」、②仕事での分岐点とも言える「マカルー遠征」、③ヨーロッパ・アルプス、カラコラム、ヒマラヤ、カナディアンロッキーズなど取材用のカメラを担ぎ、自らの足で山肌を踏みしめ、時には滑落にあいながら、まさに命がけで撮影した「世界の名峰に挑む」、④白旗のライフワークである「心の山・南アルプスとふるさとの山・富士山」、⑤南アルプスと並行して撮影し、光と影の対比など自身の表現方法を獲得した「尾瀬」、⑥白旗が選んだ日本の「百一名山」を紹介する「日本の名峰を撮る一父の山・鳥海山を中心に」、⑦高山植物や山に生きる動物を撮影した「山のなかま」である。

酒田市にとって、白旗史朗は「鳥海山」を撮った写真家として馴染みのある作家である。本展のねらいは、白旗史朗が挑んだ世界の名峰、日本の名峰、更に高山植物の保全活動にも尽力していたこと等、これまで本市で紹介しきれていなかった白旗の全仕事を網羅することである。しかしながら、白旗の仕事は膨大で、会場のスペースの関係上、パタゴニア、ニュージーランド、韓国の名峰の作品群の展示は叶わなかった。この点は、またの機会の課題としておきたい。

本展では、白旗の過去の展覧会でも紹介されていなかった部分である山岳写真家以前の仕事と、マカルー遠征について注目し取り上げたが、その理由を述べていく。

1950年代の故郷の山梨県を撮影した作品や妹の肖像写真、そしてバレエダンサーのアレクサンドラ・ダニロワやフレデリック・フランクリンなどの肖像写真や舞台写真は白旗の山岳写真家になる前段階の作品8点であり、これらを初公開作品として展示できたことは展覧会の意義としては大きい。作家自身は収入の糧として請け負っていたバレエの舞台写真や経済雑誌の仕事との決別を誓い、1962年にそれらフィルムを裁断し「山だけを撮る写真家」として独立宣言をしている為、その頃の仕事あまり評価していないよう



fig.1) 《マーゴ・フォンテイン》
1959年2月



fig.2) 《フレデリック・フランクリン》
1957年9月

である。しかし、裁断を逃れた写真群を検証してみると、本展で展示したフレデリック・フランクリン (fig.1)、マーゴ・フォンテイン (fig.2)らの肖像写真には彼ら直筆のサインが確認できた。これは、白旗の写真が一流のバレエダンサーらから高い評価を受けていたことを意味する。世界を舞台に公演するバレエダンサーたちは、写真を撮られ慣れているはずで、そのダンサーたちが白旗の写真に自らサインをしており、特にマーゴ・フォンテインにいたっては、公演中の舞台写真2枚にもサインをしているくらいお気に入りだったようだ。

白旗史朗保存会の小谷哲朗氏によると、白旗は公演の演目の内容を予め調べ、ダンサーたちのポーズや舞台の見せ場を頭の中に叩き込んで撮影に挑み、絶好のシャッターチャンスを狙っていたという。本展では展示しなかったが、現在残されている舞台写真を見ても、

動きの速いダンサーたちの次の動きを瞬時に予測し、シャッターを切っており、ブレがないピントの合った写真が多く残されている。生活の糧のための仕事として請け負っていた撮影だが、一切の手を抜かず、一流のダンサーたちを目の前にして、自身も一流の仕事をする真摯な姿勢が伺える。白旗のこういった仕事への向き合い方がバレエダンサーらから評価される結果となったのであろう。

また、当時を回想した白旗の証言によると、「当時の私は自分の作風確立のため、山岳写真だけでなく、一切の写真書、写真展を見ることを避けていた。他からの影響を恐れたのである。」という記述がある。白旗は山岳写真家として独立後は人物の写真を発表していない。その点において、白旗が撮った肖像写真は希少であり、且つ初期の段階から誰の真似もせず、自身の技術と表現のみでこれだけの仕事を成し遂げていたことを改めて評価すべきであろう。

また、本展では「マカルー遠征」も30代の若い時期の仕事として、後のキャリアへ続く大きな経験だったことから、あえて章を立てて取り上げた。

1970年5月、白旗は日本山岳会東海支部「マカルー遠征隊」の一員としてマカルーに挑んだ。当時、マカルー東南稜は未だ誰も足を踏み入れていない新ルートであった。白旗は登頂までのあらゆる状況、事物、現象を撮影することを望み、また自身も登頂しこの快挙を写真に収めたいと切に願っていた。

しかし、実際には、先に第6キャンプに入ったアタック隊員の食料と酸素が不足したと無線が入ったため、後に続く白旗らの食料、酸素の分を全て荷揚げし、隊員に譲ったことから、7,600mに設営された第5キャンプまでしか入ることができなかった。白旗が第4キャンプに下山した5月23日午後7時10分、アタック隊員が登頂に成功したとの連絡が入る。白旗は、「このよこび、この感

*本論は武内治子「白旗史朗の「山岳写真」について」「山岳写真家 白旗史朗展 心に山ありて幸いなり」2023年、一般社団法人 白旗史朗保存会、p.11-14に加筆・修正を加えたものである。



fig.3) 《C.4俯瞰 (7200m)》
1970年5月

日本人のアタック隊員たちが未踏の新ルートを拓き、登頂を達成するというチームの目標の為に、緑の下の力持ちに徹した体験は白旗を大きく成長させる契機となった。

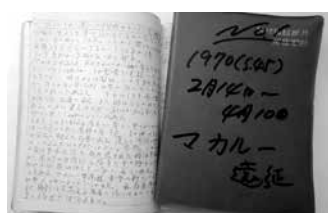


fig.4) マカール取材ノート2冊
(赤い手帳)



fig.5) 登頂時のスケッチ
(C.5より)

材をするなど、多くの世界の名峰に挑み続けた。

南アルプスや富士山、尾瀬など日本の撮影で培った霧や雲を構図に取り入れる手法に加え、世界の名峰の取材では、日本では体験できない山の大きさ、岩、氷の質感など、山の本質を追求する姿勢に益々磨きがかかった。

以上、展示構成部分においては、白旗の山岳写真がどのような環境で形成されていったのかを初期の仕事で紹介した。

本展では、その他に作品解説の一部を一般社団法人鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会の大野希一氏（事務局次長兼主任研究員）に依頼した。大野氏には白旗の写真から見た地質や環境の話などを取り入れた作品解説を担っていただき、登山の経験がない来館者にも世界や日本の名峰に興味を持って頂けるように工夫をした。当館では他分野との地域連携を図ることも地域の文化を盛り上げる大切な取り組みと位置付けており、本事業はその好例の一つとなった。

激、私は不満足な結果に終わった私自身のことはいつしか忘れ、勝利の快感にどっぷりと浸かっていたのだった。」と後に回想している (fig.3)。自分も登頂したい、それが出来なければ登頂を終えて帰ってくる隊員たちの姿を撮りたいというカメラマンとしての欲を捨てて、

白旗がマカール遠征に特に力を入れていたことは遠征時に付けていた赤い手帳の取材ノート2冊から分かる (fig.4)。白旗は、山へ登る際事前の撮影計画を立てずに、臨機応変にその時の天候や状況に合った撮影方法を考えることを常としていた。しかし、マカール遠征時、未踏のルートを拓くという前代未聞の挑戦にあたって、どのルートでどこまで登ったのか、隊員たちの状況など時にはスケッチを描くほど詳細に手帳に記した (fig.5)。白旗はその後世界の名峰に挑んでいるが、これほどまでに詳細に取材した手帳は残されていない。

日本人がマカール・東南稜を拓く歴史的快挙に隊員の一員として参加したことが白旗にとってその後のキャリアを大きく切り開くこととなった。その後、1976年コミュニティニズム峰 (7,495m) に初登頂、1978年には96日間にわたるヨーロッパ・アルプス全域取

3. 「山岳写真」とは何か 「山岳写真家」とは何か

白旗は、自身の著書の中で、「山岳写真」と「山岳写真家」についてしばしば言及している。一般に言って山岳写真は「山または山に関連した事象の写真」、山岳写真家は「山の写真を撮ることを生業とする人」と捉えられているが、その本質についてもう少し掘り下げていきたい。

白旗は、「山岳写真」とは単なる記録写真ではなく、撮影者の心が反映された主観の表現がなされている写真のことだと定義づけている³⁾つまり、撮影者の個性と生命、自然観が写真から読み取れるということである。特に自然観については個人の生まれ育った環境が大きく影響していることを下記のように指摘している。

山岳写真には、すでに何回か述べたように作者（撮影者）の心の反映が見られなければならないが、それには作者の持っている自然観と感受性が大きく影響してくる。人間は生まれ育った環境によって、それぞれ異なった自然観を持っている。生まれながらに具っている感性と違って、自然観は大部分が後天的に形成されるが、この山に対する考え方、山への理解ともいうべきことがらが、生来持つ感性とともに、山から受ける感動の原点をしっかりと把握し、分析して、どのように表現すればよいか、その方向は、方法は、の判断の基準となるのである。

(引用：白旗史朗『白旗史朗の山岳写真 撮影テクニック』山と溪谷社、1999年、p.18)

生まれながらに持っている感性と後天的に形成されていく自然観が備わってこそ初めて、山への理解度が深まり、人の心に感動・共感を与える「山岳写真」が撮れるのである。言い換えれば、山岳写真には、撮影者がどう生きてきて、何を考え、どう感じているのかが反映される。そして、それを表現する最善の手法や技術を持ち合わせている者が「山岳写真家」なのである。また、白旗は、山、写真、私は1つのものに凝縮しており、山と写真のどちらかが欠けても私自身ではないとも語っている。⁴⁾それぞれの個体が1つのものと感じる感覚とは一体どんなものであろうか。それは、自らの人生をかけて1つのことを追求しなければ到達できない領域であり、体現した者にしか理解しえないものであろう。しかし、私たち鑑賞者は白旗の山岳写真を通して、白旗の山に対する深い愛情や情景を感じ取ることが可能である。それはやはり、白旗が山とどう向き合い、山をどう見つめ、捉えているのかを、第三者に伝えられる確かな表現力と技術力を十分に持ち合わせた山岳写真家だからなのである。

ここで、白旗の「山岳写真家」としての条件を確認していこう。

私は「山に登らなければ山岳写真は撮り得ない。だから山岳写真家を志す人間は山に登るべきである」と考えています。

(引用：白旗史朗『山と写真 わが青春』岩波ジュニア新書、1940年、p.18)

上記の文章は簡潔であるが、山岳写真家の信念として非常に重要である。山岳写真家は登山家の荷物に加えてカメラ機材を背負い、不安定な山の気象状態を見極め、四季折々の豊かな山の姿を写真に収めなければならない。また、白旗は山岳写真家の最低条件として、厳冬の3000m峰に自力で登れることと、岩壁を登れる高度な技術があることが必要だと述べている。⁵⁾更に完璧を目指すならば、登山技術の他に、山の地質、地形、植物、動物、気象、歴史なども十分に学ばなければならず、その理解度によって自分の撮影したいポイントや、撮影したいイメージを具現化できるとしている。実際、白旗は撮影の際、航空機などは使わず一歩一歩、自分の足で山を踏みしめて撮影に挑む。自分をどれだけ追い込めるか、自分の限界を

どこまで推し進め、可能性を広げられるのか、その厳しい撮影スタイルの積み重ねが、あの神秘的で尊厳な山の写真に結実するのである。白旗の山岳写真は、長い年月をかけて培ってきた写真技術と登山の技術、撮影ポイントに辿り着くまでの厳しい行程、そして何より山への深い愛情があってこそ成り立つのである。

4. 青年時代一師・岡田紅陽との出会い

前章で述べてきたように、白旗は山岳写真に必要なものは育ってきた環境で培う自然観と生まれながらの感受性であるとしている。本章では、白旗がどのような環境下で育ち、山岳写真家として独立していったのかを述べていく。

白旗史朗は1933年、山梨県北都留郡広里村（現・山梨県大月市）に生まれる。この土地は、山中湖から流れる桂川、その支流の笹子川が流れ、これとほぼ直角に真木川、浅利川などが流入し、複雑な起伏を形成している。南方に徳山、北方に岩殿山、兜山、雁ヶ腹摺山、大菩薩南嶺の山々、東には百蔵山、扇山、西には高川山と九鬼山、そして桂川の谷の上に富士山がそびえ立つという、山に囲まれた土地で育っている。

父に連れられ、兄と山歩きをして幼少期を過ごし、そこで突然の夕立に遭ったり、アケビやヤマブドウといった山の幸との出会いなど、山に登る度に新しい発見と楽しい思い出を作っていた。中学卒業後は、家庭の事情により高校には進学せず、弟や妹たちの世話をしながら家事手伝いをする時期が約3年続いた。その間に、白旗を山岳写真家に導く決定的な出来事が訪れる。地元の写真館で桂川に掛かる高月橋とそびえ立つ周辺の赤松を捉えた写真を偶然目にする。その瞬間、幼少期から育まれてきた自然への憧れを、自分でも写真で具現化してみたいという欲求が白旗の中で生まれたのである。白旗は父へ自然を撮る写真家になりたいと打ち明け、協力を求めた。父は息子の願いを聞き入れ、それならば有名な写真家のもとで修業をするのが良いと、富士山の写真で名高い岡田紅陽（1895-1972）に面識もない状況で願い出るのである。こうして白旗は岡田の内弟子として約5年間下積み修業をする。

岡田は白旗へ何かを教えるということはず、ただ自分の仕事への姿勢を見せることで山岳写真家とは何かを教えていった。白旗は当初撮影させてもらえないことに心の中で不満を持っていたが、富士山の撮影に同行しているうちに、自然を相手に撮影することはどうということなのか、師が何を撮ろうとしているのかを見極めることこそが勉強なのだ気が付く。そして、師が富士山に対峙し気迫の迫った真剣勝負の現場をそばで観察しているうちに、師が撮影に当たって求めているフィルムやレンズなどを瞬時に判断し渡せるようになっていった。それは、師が富士山に対して富士山の心や表情を感じ取ろうとしている時、白旗もまた同じように感じようと努め、師と富士山と自分の心が一致した瞬間でもあった。全身全霊、富士山に打ち込む師の姿は、山岳写真家として独立した後の白旗の撮影スタイルと重ね合わせられる。師との出会いによって、白旗の自然観は形作られていった。

白旗は、南アルプス、尾瀬などをライフワークとしているが、それに加え師が撮り続けた富士山もテーマとしている。師のライフワークとしていた山を、弟子がライフワークとすることは覚悟がいる。それは師とは違う撮り方で富士山に挑戦するという大きな課題であり、これを成し遂げてこそ師への恩返しとなると白旗は考えた。白旗は、その課題の解決方法として、2つのことを実践している。

1つ目は富士山の山中に深く入ることをあえて回避し、師がしてこなかった撮影方法、つまり南アルプスから望む富士山の撮影である。富士山は他の山と違って形が複雑ではなく、単純明快な山容の富士は山に入り込むとこがえて円錐の美しさが失われ、魅力が半減してしまうと考えたのである。そして、富士山と南アルプスの高さが対峙する時、そこに高度感が強調され、緊迫感が醸し出される効果があると考えた。《盛夏爽涼（南アルプス北岳）》（fig.6）や《雲海漠々（悪沢岳）》（fig.7）はその好例と言える。

2つ目は雲や霧を効果的に取り入れた表現方法である。これは、



fig.6) 《盛夏爽涼（南アルプス北岳）》



fig.7) 《雲海漠々（悪沢岳）》
1968年10月16日

白旗の他の名峰でも確認できることだが、他の写真家が快晴を狙いがちになるところをあえて雲や霧の姿を取り入れることによって、山の雄大さや大きさを表現でき、幻想的な光景を演出している。これは白旗独特の表現方法で、雲や霧を取り入れた写真は富士山や尾瀬の写真に特に多い。しかし、理想的な雲や霧を捉えるには変わり易い天候の中で容易なことではない。理想的な雲や霧が現れるまで忍耐力と集中力が必要であるが、そういった姿勢は師である岡田の撮影スタイルと似ている。

5. 終わりに

本論では、2023年に開催した展覧会の振り返りをしながら、白旗史朗の初期の仕事に重点を当てて、白旗の山岳写真家としての姿勢と、白旗にとっての山岳写真の定義について述べた。山岳写真家として写真を撮るには、長い月日をかけて山と対話し続けること、そして自分がイメージする心の山を具現化するためには、写真家としての確かな技術力、表現方法の確立が必要不可欠である。そういった要素を、白旗は日本や世界の名峰に登り、写真を撮り続けることで習得していったのである。白旗の飽くなき山への探求心は、即ち内なる自分自身への探求心である。白旗は、10代の頃から生涯をかけて山を愛し、山岳写真を撮り続けると決意し、それをやり遂げた。白旗の残した山岳写真には、山への深い愛情が写し出されている。

筆者自身、作家本人にお会いしたのは2018年に八幡タウンセンター（酒田市）で開催された「やわた文化祭50回記念事業」での講演会「父の山 鳥海山を語る」での1度きりである。講演会終了後、楽屋でお会いした際、講演会での疲れも見せず、力強く温かい眼差しで迎え入れてくださったことが懐かしく、本市へ向けてくださった支援と愛情に少しでも恩返しできればと思い、展覧会を立ち上げた。結果として、山岳写真家白旗史朗の仕事の全容を紹介できたことで、全国の山を愛する方々、写真愛好家の方々など、沢山の方からご高覧頂けた展覧会となった。

最後に、展覧会の開催にあたり、一般社団法人白旗史朗保存会の皆様には作品整理や、資料提供、会期中の関連イベントの調整等多大なるご協力とご助言を頂きました。心より感謝申し上げます。

- i 図録『山岳写真家 白旗史朗展 心に山ありて幸いなり』2023年、一般社団法人 白旗史朗保存会、p.36
- ii 前掲書、p.132
- iii 白旗史朗『白旗史朗の山岳写真 撮影テクニック』山と溪谷社、1999年、p.14
- iv 白旗史朗『山と写真 わが青春』岩波ジュニア新書、1940年、p.2
- v 前掲書、p.19

【参考文献】

白旗史朗『山、わが生きる力』新日本出版社、2003年
『昭和写真・全仕事SERIES・11 白旗史朗』朝日新聞社、1983年
図録『白旗史朗 日本と世界の名峰を讀う』山梨県立美術館、テレビ山梨、白旗史朗写真展実行委員会、2003年
写真集『白旗史朗の山』山と溪谷社、1986年

平成9年度▶令和5年度

参考資料

1997~2023

沿革

酒田市美術館建設計画推進の経過

平成4年度	・ 酒田市民美術館(仮称)建設計画策定協議会設置(以後平成5年5月まで10回にわたり協議) ・ 酒田市民美術館整備基金設置(平成4年度から6年度までの3力年に各1億円ずつ、計3億円を積立て)
平成5年度	・ 酒田市民美術館(仮称)建設計画策定協議会から提言提出。
平成6年度	・ 設計業務委託(～平成7年7月31日)／用地取得11,135.98㎡／立木調査業務委託／地盤調査業務委託
平成7年度	・ 酒田市民美術館(仮称)建築・機械設備・電気設備工事着手／用地取得11,248.59㎡ ・ 建設用地縦横断測量及び設計業務委託／建設用地造成工事(造成・土留・既存林補植)
平成8年度	・ 酒田市民美術館(仮称)独立壁築造・植栽・外構・外構機械及び外構電気設備工事着手 ・ 用地最終取得9,131.45㎡ ・ 酒田市美術館の竣工(3月20日)／管理運営組織「財団法人 酒田市美術館」設立(3月21日)
平成9年度	・ 酒田市美術館設置管理条例の施行(4月1日)／酒田市美術館開館式典の開催(10月2日) ・ 酒田市美術館開館記念特別展「一卒寿記念－森田茂展」開会式(10月3日)
平成25年度	・ 平成25年4月1日 公益財団法人に移行

酒田市美術館 受賞記録

- ◆第8回 公共建築賞／平成14年11月28日 国土交通大臣 扇千景
- ◆第5回 やまがた景観デザイン賞 山形県知事賞／平成9年11月14日 山形県知事 高橋和雄
- ◆第39回 建築業協会賞／平成10年11月18日 社団法人 建築業協会 会長 今村治輔
- ◆照明普及賞 優秀施設賞／平成10年5月22日 社団法人 照明学会 照明普及協会 会長 坂田眞



第8回 公共建築賞



第5回 やまがた景観デザイン賞



第39回 建築業協会賞



照明普及賞 優秀施設賞

施設概要

整備面積	31,516.0㎡
総床面積	2,982.54㎡
建築構造	鉄筋コンクリート造(小屋組一部鉄骨造)／地上1階
駐 車 場	110台
施工期間	平成7年12月21日～平成9年3月20日(建築工事)
建築設計及び設計管理	酒田市建設部建築課／(株)池原義郎・建築設計事務所
施 工	竹中工務店・フジタ・大場建設共同企業体 [建築・独立壁築造その他・外構]
	日立プラント建設・弘栄設備工業共同企業体 [機械設備・外構機械設備]
	東北電化工業(株) [電気設備・外構電気設備]
	庄内園芸緑化(株) [植栽]
美術館建設費	25億9千2百万円(用地取得・造成工事・設計及び設計管理・建築工事・設備工事・周辺整備工事・備品購入費)

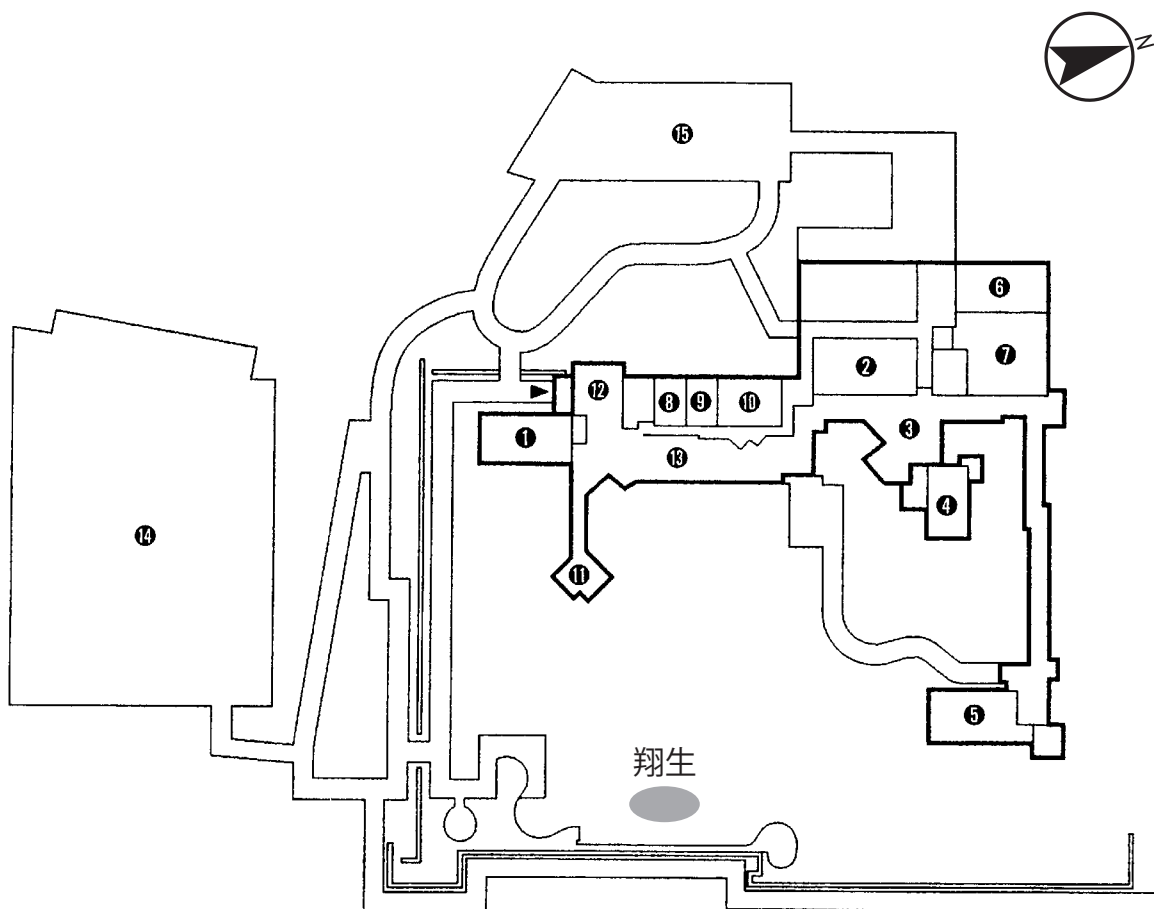
各室別面積表

①市民ギャラリー	172.00㎡	⑨館長室	43.08㎡
②企画展示室	162.00㎡	⑩事務室	86.16㎡
③展示ホール	222.00㎡	⑪喫茶「モンマルトル」	116.00㎡
④常設展示室I	119.79㎡	⑫エントランス	62.98㎡
⑤常設展示室II	182.00㎡	⑬ロビー・ショップ	342.25㎡
⑥収蔵庫(彫刻)	267.00㎡	⑭来客用駐車場	86台
⑦収蔵庫(絵画)	242.60㎡	⑮管理用駐車場	24台
⑧ミーティングルーム	43.08㎡		

※市民ギャラリーには空調室含む

※収蔵庫(彫刻)は2階部分を含む

※収蔵庫(絵画)には前室を含む



酒田市美術館

(1) 法人設立の目的(当初財団法人設立趣意書より)

この美術館は、酒田市はじめ庄内地域全体の美術館として、近代及び現代美術作品を中心とする収集・展示や、市民の創作活動の発表の場の提供などを通じ、将来にわたり市民の芸術文化の向上に寄与することを目的とする。

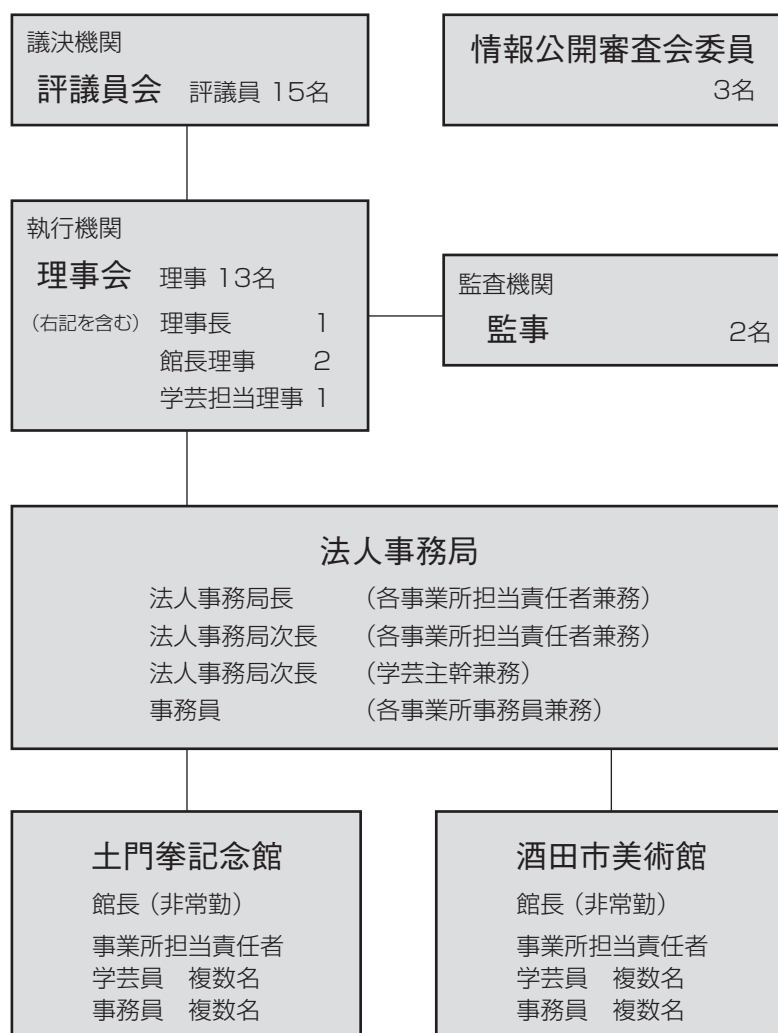
(2) 美術館の管理・運営

平成9年4月1日 管理・運営を受託

平成18年4月1日～ 現在 指定管理者として管理・運営を受託

令和 3年6月1日～ 公益財団法人土門拳記念館と統合し、公益財団法人さかた文化財団となり、新財団が指定管理者として管理・運営を受託。

(3) 公益財団法人さかた文化財団 組織図



(4) 役職員簿

理事長(代表理事)	1名
館長理事(業務執行理事)	2名
学芸担当理事(業務執行理事)	1名
理 事	9名
監 事	2名
評 議 員	15名
情報公開審査会委員	3名
(酒田市美術館)	
事務局長	1名
学芸主幹	1名
総務主査	1名
学芸主任	1名
学芸員	1名
事務員	1名

特別企画展一覧

(平成9年度～令和5年度)

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
9-01	卒寿記念森田茂展	H9.10.3	～ H9.11.3	9,898
9-02	世界の文化遺跡を描く平山郁夫展	H9.11.8	～ H9.11.30	10,322
10-01	池田あきこ原画展	H10.3.20	～ H10.4.19	7,161
10-02	中国現代画家黄胄とその作品	H10.4.24	～ H10.5.17	4,741
10-03	ミレーとバルビゾン派の画家たち	H10.6.19	～ H10.7.20	8,471
10-04	時代を駆け抜けた、鮮烈の青春小野幸吉展	H10.8.28	～ H10.9.27	5,606
10-05	人間国宝奥山峰石金工展	H10.9.30	～ H10.11.16	3,037
10-06	第53回県美展酒田巡回展・第40回こども県展	H10.11.11	～ H10.11.16	1,492
10-07	写真家岩合光昭の「スノーモンキー」	H10.11.20	～ H10.12.20	3,568
11-01	版と炎の造形池田満寿夫と安倍安人展	H11.4.23	～ H11.5.23	5,105
11-02	女性のいる風景 ―近世ヨーロッパの絵画の流れ―	H11.6.11	～ H11.7.26	6,696
11-03	全国高等学校総合文化祭	H11.7.30	～ H11.8.3	1,751
11-04	写真家青野恭典展 ―みちのく彩時季―	H11.8.6	～ H11.8.30	4,104
11-05	ポーランドクラクフ国立博物館浮世絵名品展	H11.9.3	～ H11.10.3	6,308
11-06	第54回県美展酒田巡回展・第41回こども県展	H11.11.10	～ H11.11.15	2,024
11-07	佐藤時啓のまなざし「光―呼吸」	H11.11.19	～ H12.1.16	4,014
12-01	わくわくアニメワールド	H12.3.18	～ H12.4.16	8,906
12-02	悠久のときを超えていまよみがえる始皇帝の銅車馬展 ―中川コレクション展	H12.4.21	～ H12.5.21	7,327
12-03	自然、風景との対話松本哲男展	H12.5.26	～ H12.6.23	3,306
12-04	東京国立近代美術館所蔵近代の名作展	H12.6.28	～ H12.7.30	14,479
12-05	日本のふるさとを描く原田泰治の世界展	H12.8.3	～ H12.8.27	16,450
12-06	カナダモントリオール美術館所蔵クレマンソー・コレクションより「香合の美」展	H12.8.31	～ H12.10.10	7,813
12-07	第55回県美展酒田巡回展・第42回こども県展	H12.10.26	～ H12.10.30	2,349
12-08	20世紀の巨匠梅原龍三郎展	H12.11.3	～ H12.11.26	6,545
13-01	第45回現代書道二十人展	H13.3.16	～ H13.4.15	4,403
13-02	これでいいのだ! 赤塚不二夫展	H13.4.20	～ H13.5.20	8,236
13-03	没後10年 ―高橋剛彫刻展	H13.5.25	～ H13.7.1	4,384
13-04	高橋由一から藤島武二まで山岡コレクションを中心に日本近代洋画への道展	H13.7.6	～ H13.8.19	7,415
13-05	大正の面影と抒情を誘って中右コレクションと酒田の夢二竹久夢二展	H13.8.25	～ H13.9.30	10,347
13-06	第56回県美展酒田巡回展・第43回こども県展	H13.10.25	～ H13.10.29	2,129
13-07	農民を描き続けた沈黙の画家―常田健展	H13.11.2	～ H13.12.2	4,803
14-01	谷内六郎の世界展 忘れ得ぬこころの風景	H14.3.21	～ H14.5.5	10,774
14-02	井上靖展 ―文学の軌跡と美へのまなざし―	H14.5.10	～ H14.6.9	5,200
14-03	つちだよしはるのくまくん美術館	H14.6.13	～ H14.6.30	8,875
14-04	砂の世界を旅した画家 ―國領経郎展	H14.7.5	～ H14.7.28	2,940
14-05	開館5周年特別企画 近代絵画の巨匠たち―印象派からエコール・ド・パリ展	H14.8.2	～ H14.9.1	10,232

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
14-06	色彩の詩人ピエール・ルシュール展	H14.9.6	～ H14.9.29	4,440
14-07	片岡鶴太郎展 一花音色一	H14.10.11	～ H14.11.4	17,623
14-08	第57回県美展酒田巡回展・第44回こども県展	H14.11.8	～ H14.11.12	1,618
14-09	渡邊榮一銅版画・油彩画作品展	H14.11.14	～ H14.12.23	3,068
15-01	河井リツ子「とっこハム太郎」の原画初公開ととっこハム太郎美術館展	H15.3.21	～ H15.4.20	10,075
15-02	中島潔が描く金子みすゞ まなざし	H15.4.25	～ H15.5.25	8,785
15-03	カッセル グリム兄弟博物館所蔵 永遠のグリム童話展	H15.5.30	～ H15.7.6	6,712
15-04	華々しくメルヘンの世界へ 辻村寿三郎人形展	H15.7.11	～ H15.8.17	17,565
15-05	林功展 その人と作品	H15.8.22	～ H15.9.28	6,226
15-06	国民文化祭写真部門	H15.10.4	～ H15.10.13	3,047
15-07	第58回県美展酒田巡回展・第45回こども県展	H15.10.17	～ H15.10.21	1,947
15-09	ロバート・ハインデル展 ～舞台のダンサーに魅せられて～	H15.11.2	～ H15.12.7	5,017
15-10	アルパースのいとちかたち展	H15.12.12	～ H16.3.14	3,556
16-01	いわむらかずお 絵本の世界展	H16.3.19	～ H16.4.18	9,002
16-02	魯山人の宇宙展	H16.4.24	～ H16.5.30	10,314
16-03	ジュディ・オング 木版画の世界展	H16.6.5	～ H16.7.19	13,863
16-04	没後10年 斎藤長三展	H16.7.25	～ H16.8.15	2,735
16-05	東山魁夷展 冬の旅	H16.8.21	～ H16.9.26	12,349
16-06	傳益瑤(フイーヤオ)墨画と寺宝展	H16.10.1	～ H16.11.4	5,752
16-07	第59回県美展酒田巡回展・第46回こども県展	H16.11.10	～ H16.11.16	2,610
16-09	つちだよしはるの冬のくまくん美術館	H17.1.18	～ H17.1.30	3,775
17-01	光と影のシンフォニー 藤城清治の世界展	H17.3.19	～ H17.5.8	21,170
17-02	佐藤昌祐油絵展	H17.5.15	～ H17.6.12	4,890
17-03	オードリー・ヘップバーン展	H17.6.19	～ H17.7.31	18,600
17-04	吟遊詩想画人早川義孝展	H17.8.7	～ H17.9.11	5,262
17-05	京の四季展 ～絵画でたどる京都の美～	H17.9.17	～ H17.10.23	6,671
17-07	第60回県美展酒田巡回展・第47回こども県展	H17.11.9	～ H17.11.15	2,174
17-08	宮崎進展 ～シベリアからサンパウロまで～	H17.11.21	～ H17.12.18	2,049
18-01	つちだよしはるのくまくん美術館 ～くまくんパレへいく～	H18.3.18	～ H18.4.23	9,252
18-02	～こころの詩～ 八代亜紀絵画展	H18.4.29	～ H18.6.11	16,773
18-03	假屋崎省吾の世界展 ～語り継がれる、新たな美の歴史～	H18.6.17	～ H18.7.23	12,475
18-04	～竜宮伝説～ 伊東昭義	H18.7.29	～ H18.9.3	6,067
18-05	～ジャポニスムへの旅～ 平松礼二展	H18.9.9	～ H18.10.22	6,041
18-07	第61回県美展酒田巡回展・第48回こども県展	H18.11.8	～ H18.11.13	2,128
18-08	世界遺産写真展Ⅲ ～映像と写真でつづる、地球の記憶～	H18.11.19	～ H18.12.24	9,343
19-01	やなせたかしの世界展	H19.3.17	～ H19.5.6	13,739

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
19-03	故郷からのおくりもの ～高橋まゆみ創作人形展～	H19.5.12	～ H19.6.17	25,642
19-04	アーミッシュの世界 松下麻里・菅原千代志・菅原真理子展	H19.6.23	～ H19.7.16	6,138
19-05	新田嘉一コレクション展 ～美に魅せられ、美と生きる～	H19.7.22	～ H19.8.20	10,873
19-06	相田みつを全貌展 ～相田みつを美術館開館10周年記念～	H19.8.26	～ H19.9.26	18,010
19-07	生誕100年 森田茂展 ～酒田市美術館開館10周年記念～	H19.10.3	～ H19.10.23	2,635
19-09	第62回県美展酒田巡回展・第49回こども県展	H19.11.7	～ H19.11.12	2,250
20-01	池田あきこ原画展「ダヤンのおいしいゆめ」から20年	H20.3.15	～ H20.5.6	9,403
20-02	柳澤紀子 永遠の瞬間 越境する身体	H20.5.11	～ H20.6.8	2,828
20-03	～池田理代子～ 永遠のベルサイユのばら展	H20.6.14	～ H20.7.21	8,482
20-04	娘とその父 工藤静香展	H20.7.27	～ H20.9.7	14,763
20-05	～巨匠も描いた! クレパスっておもしろい!～ クレパス画名作展	H20.9.13	～ H20.10.22	4,543
20-07	第63回県美展酒田巡回展・第50回こども県展	H20.11.5	～ H20.11.10	2,174
20-08	小磯良平 聖書装画展	H20.11.16	～ H20.12.25	2,898
21-01	旭山動物園の物語 あべ弘士絵本原画展 動物たちが集まった!	H21.3.20	～ H21.4.19	4,142
21-02	ベストオブ世界遺産展	H21.4.25	～ H21.6.7	8,875
21-03	故郷からのおくりもの ふたたび 高橋まゆみ創作人形展	H21.6.14	～ H21.7.26	20,593
21-04	パリを愛した画家たち展	H21.8.2	～ H21.9.13	9,373
21-05	染色家 芹沢銈介の世界展	H21.9.19	～ H21.10.20	4,589
21-07	第64回県美展酒田巡回展・第51回こども県展	H21.11.13	～ H21.11.18	1,653
21-08	キャシーズキルトワールド展	H21.11.23	～ H21.12.25	10,266
21-09	新田嘉一コレクション 陶芸作品展	H22.2.3	～ H22.2.28	2,059
22-01	市原基写真展「ヒマラヤ水系」	H22.3.20	～ H22.4.23	3,247
22-02	きりえの魅力 滝平二郎遺作展	H22.4.29	～ H22.6.13	8,263
22-03	近くて懐かしい昭和展	H22.6.19	～ H22.7.25	9,448
22-04	戦没画学生遺作「無言館」祈りの絵展	H22.7.31	～ H22.9.9	5,044
22-05	榎木孝明 水彩紀行展 一景色は私の心の窓	H22.9.15	～ H22.10.24	7,599
22-07	第65回県美展酒田巡回展・第52回こども県展	H22.11.10	～ H22.11.15	2,043
22-08	ちばてつや漫画原画展	H22.11.21	～ H22.12.23	3,468
22-09	一酒田市寄贈記念 洋画家 真下慶治展	H23.1.22	～ H23.2.20	2,174
23-01	ハイチの素朴な絵画展	H23.4.1	～ H23.4.25	2,478
23-02	片岡鶴太郎展 艶葉樹 ～つやばき～	H23.5.1	～ H23.6.12	12,350
23-03	葦崎大森美術館所蔵 女流画家の世界展	H23.6.18	～ H23.7.24	4,505
23-05	佐川美術館所蔵 平山郁夫展 ～大唐西域画への道～	H23.7.30	～ H23.9.19	10,479
23-06	安部朱美 創作人形展「昭和の家族」きすな	H23.9.25	～ H23.10.25	9,709
23-08	第66回県美展酒田巡回展・第53回こども県展	H23.11.9	～ H23.11.14	2,009
24-01	江成常夫写真展「昭和史のかたち」	H24.3.18	～ H24.4.22	2,075

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
24-02	細密画家 熊田千佳慕展	H24.4.28	～ H24.6.3	5,769
24-03	美しく生きる 中原淳一展	H24.6.9	～ H24.7.22	5,919
24-04	PLAY THE GLASS 増田洋美 ガラスの世界展	H24.8.1	～ H24.9.2	6,481
24-05	孤高の旅人 堀 文子展	H24.9.9	～ H24.10.23	7,195
24-07	第67回県美展酒田巡回展・第54回こども県展	H24.11.7	～ H24.11.12	1,981
24-08	岩合光昭 どうぶつ写真展 地球の宝石 × B.T.グリーヴ／文	H24.11.18	～ H25.1.31	6,628
24-09	國領経郎展	H25.2.6	～ H25.3.10	3,003
25-01	ハローキティアート展	H25.3.16	～ H25.4.22	11,331
25-02	一人形・動物・革絵 一本池秀夫 革の世界展	H25.4.27	～ H25.6.2	6,517
25-03	ともに生きる NHKハート展	H25.6.8	～ H25.7.15	8,137
25-04	あべとしゆき水彩画展(市民ギャラリー)	H25.6.12	～ H25.7.15	7,564
25-05	ルーヴル美術館の銅版画展 カルコグラフィコレクション	H25.7.21	～ H25.9.1	5,618
25-06	画家たちの自画像展 ー日本洋画の近代から現代までー	H25.9.7	～ H25.10.21	3,669
25-08	第68回県美展酒田巡回展・第55回こども県展	H25.11.6	～ H25.11.11	2,005
26-01	アトリエの巨匠100人 南川三治郎写真展	H26.3.15	～ H26.4.14	1,883
26-02	安野光雅「旅の絵本」の世界展 ～風景と街並に隠されたユーモア～	H26.4.20	～ H26.6.1	5,107
26-03	放浪の天才画家 山下清展	H26.6.7	～ H26.7.21	10,749
26-04	文化人・芸能人の多才な美術展2014	H26.7.27	～ H26.9.7	6,329
26-05	メキシコの大地生命への賛歌 竹田鎮三郎展	H26.9.13	～ H26.10.19	2,707
26-07	第69回県美展酒田巡回展・第56回こども県展	H26.11.5	～ H26.11.10	1,761
26-08	大滝博子創作人形の世界展 ～作者の言葉と書で綴る～	H26.11.16	～ H26.12.21	5,844
27-01	時空を超えて遊ぶ 川岸富士男の世界展 ～椿と四季の草花譜～	H27.3.15	～ H27.4.19	4,424
27-02	有元利夫展 ー天空の音楽ー	H27.4.25	～ H27.5.31	3,308
27-04	くまのプーさん展	H27.6.6	～ H27.7.12	15,002
27-05	ダンボール遊園地	H27.7.18	～ H27.9.6	18,359
27-06	挑戦する現代ガラス '15日本のガラス展	H27.9.12	～ H27.10.18	5,924
27-08	第70回県美展酒田巡回展・第57回こども県展	H27.11.4	～ H27.11.9	1,580
27-09	池田修三木版画展 ～センチメンタル・メルヘンの世界～	H27.11.15	～ H27.12.23	3,315
27-10	早川俊二の世界 遥かな風景への旅	H28.1.5	～ H28.1.26	1,143
27-14	青野恭典追悼展	H28.3.1	～ H28.3.10	248
28-01	宮竹真澄・心のふる里人形展	H28.3.19	～ H28.4.17	5,668
28-02	～夢見る色彩の詩人～ マリーローランサン展	H28.4.23	～ H28.6.12	5,607
28-03	今にも動き出しそうな動物たち 中山みどりフェルトアート展	H28.6.18	～ H28.7.24	11,221
28-05	佐藤真生の世界展「間(Ma)」	H28.7.30	～ H28.9.4	4,615
28-06	鉄道写真家中井精也写真展 1日1鉄!	H28.9.10	～ H28.10.23	5,575
28-08	第71回県美展酒田巡回展・第58回こども県展	H28.11.9	～ H28.11.14	1,600

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
28-09	マイメロディ♡キキ&ララ☆展	H28.11.19	～ H28.12.23	8,223
29-01	酒田市美術館収蔵品展～生誕110年森田茂と新田嘉一コレクション～	H29.3.18	～ H29.4.16	1,775
29-02	アルフォンス・ミュシャ展	H29.4.22	～ H29.5.28	10,002
29-03	昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930年協会から独立へ	H29.6.3	～ H29.7.9	2,208
29-04	ダンボール遊園地 しんかいせいびつたんけんたい	H29.7.15	～ H29.8.27	17,235
29-05	リマスターアートによる 19世紀のパリ、色彩の時代展	H29.9.2	～ H29.10.9	4,539
29-07	第72回県美展酒田巡回展・第59回こども県展	H29.11.8	～ H29.11.13	1,513
29-08	興福寺の柱絵と畠中光享展	H29.11.18	～ H29.12.24	2,661
30-01	どうぶつたちの棲む森 はしもとみお木彫りの世界展	H30.3.17	～ H30.4.22	8,405
30-02	培広庵コレクション 華麗なる美人画展	H30.4.28	～ H30.5.27	4,377
30-03	女性像にみるフォルム/現実/夢 描かれた女たち展	H30.6.2	～ H30.7.16	3,067
30-04	写真家たちの世界遺産展	H30.7.21	～ H30.9.2	4,969
30-05	リ・クリエイトでよみがえるフェルメール・光の王国展	H30.9.8	～ H30.10.14	9,288
30-07	第73回県美展酒田巡回展・第60回記念こども県展	H30.11.7	～ H30.11.12	1,733
31-01	ねこ写真家 関由香写真展 ねこうら	H31.3.16	～ H31.4.14	5,099
31-02	ピアトリクス・ポター生誕150周年記念 ピーターラビットの世界展	H31.4.20	～ R1.5.26	7,767
31-03	ホキ美術館名品展～心ゆさぶる写真絵画～	R1.6.1	～ R1.7.15	7,606
31-04	遊びごろの「か・た・ち」展	R1.7.21	～ R1.9.1	5,702
31-05	キルトに魅せられて展	R1.9.7	～ R1.10.20	5,403
31-07	第74回県美展酒田巡回展・第61回こども県展	R1.11.6	～ R1.11.11	2,002
2-01	生誕100年 國領経郎展 ―静寂なる砂の景―	R2.3.7	～ R2.4.7	1,669
2-03	高砂淳二写真展 ―Dear Earth―	R2.7.18	～ R2.8.30	5,191
2-04	二つの東海道五拾三次 歌川広重展	R2.9.5	～ R2.10.18	4,432
2-05	オードリー・ヘプバーン写真展	R2.11.28	～ R3.1.22	4,378
2-06	いわさきちひろ ピエゾグラフ展	R3.1.30	～ R3.3.14	5,002
3-01	アンティークドールの夢展 ～児玉幸雄コレクション～	R3.3.20	～ R3.5.16	2,655
3-02	酒田市美術館・土門拳記念館共同企画 今森光彦「自然と暮らす切り紙の世界」展	R3.5.22	～ R3.7.9	4,061
3-03	つくる展 ―TASKOファクトリーのひらめきをかたちへ―	R3.7.17	～ R3.8.29	13,206
3-04	魔女がやってきた 角野栄子展	R3.9.4	～ R3.10.17	5,470
3-05	第76回県美展酒田巡回展・第63回こども県展	R3.11.10	～ R3.11.15	1,701
3-06	令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展 板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス―画家たちの交差点―	R3.11.20	～ R4.1.10	2,105
4-01	心のかたち 彫刻家・峯田義郎展	R4.3.19	～ R4.4.24	1,824
4-02	リサとガスパールのおもいで展	R4.4.29	～ R4.7.10	8,922
4-03	版画・水彩画による 平山郁夫 ～シルクロードと奥の細道～	R4.7.16	～ R4.8.28	4,603
4-04	酒田市美術館・土門拳記念館共同企画 2つのまなざし 江成常夫と土門拳 ―ヒロシマ・ナガサキ―	R4.9.3	～ R4.10.16	1,859
4-05	第77回県美展酒田巡回展・第64回こども県展	R4.11.9	～ R4.11.14	1,716

年度	展覧会名	開会日	閉会日	観覧者数
4-06	渡辺おさむ お菓子の美術館	R4.11.19	～ R5.1.22	8,250
4-07	新田嘉一コレクション 陶芸逸品展	R5.1.28	～ R5.3.12	3,685
5-01	天童市美術館収蔵品 熊谷守一 いのちを描く	R5.3.18	～ R5.4.23	2,224
5-02	酒田市美術館・土門拳記念館連携企画 心に山ありて幸いなり 山岳写真家 白旗史朗展	R5.4.29	～ R5.6.25	3,830
5-03	サンリオデザイナーのおしごと展	R5.7.1	～ R5.8.27	16,114
5-04	石黒光二 彫刻展 -心・空間・かたち-	R5.9.2	～ R5.10.22	2,314
5-05	第78回県美展酒田巡回展・第65回こども県展	R5.11.8	～ R5.11.13	1,806
5-06	画業50周年 一瞬間の"煌めき"中島潔 令和の心を女性に描く	R5.11.18	～ R6.1.21	3,469
5-07	酒田市美術館収蔵品展 アートトリップ!	R6.1.27	～ R6.3.10	4,627
				1,207,477

年度別入館状況※

(平成9年度～令和5年度)

(人)

区	分	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
展覧会	一般	19,409	20,529	15,835	23,865	15,010	19,523	15,798	15,525	14,060	15,406	25,740	12,379
	大学生・高校生	533	1,247	648	983	912	1,154	805	633	916	645	746	745
	中学生・小学生	1,289	1,957	1,251	2,514	1,454	1,822	2,164	1,904	2,091	1,741	1,541	1,205
	会員券・招待・視察等	8,814	21,701	24,744	43,256	33,881	48,676	43,878	43,941	46,774	48,801	57,058	32,508
観覧者数小計		30,045	45,434	42,478	70,618	51,257	71,175	62,645	62,003	63,841	66,593	85,085	46,837
市民ギャラリー入場者数		6,182	24,375	14,337	35,418	20,093	17,715	24,221	17,859	12,435	15,859	9,011	12,891
喫茶利用者数		11,301	20,201	15,943	22,034	15,129	17,845	16,247	15,840	14,294	13,581	15,165	9,883
入館者数計		47,528	90,010	72,758	128,070	86,479	106,735	103,113	95,702	90,570	96,033	109,261	69,611

(人)

区 分		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
展 覧	一 般	21,413	10,308	13,841	12,603	8,197	12,022	17,710	14,265	16,206	12,826	12,163	8,725
	大学生・高校生	667	374	377	611	338	451	688	522	518	444	454	159
	中学生・小学生	896	743	650	1,819	1,195	1,140	6,049	2,557	4,560	1,354	1,924	621
会	会員券・招待・視察等	40,117	30,351	31,431	29,926	37,522	26,224	34,733	27,528	24,269	21,195	21,404	11,346
観 覧 者 数 小 計		63,093	41,776	46,299	44,959	47,252	39,837	59,180	44,872	45,553	35,819	35,945	20,851
市民ギャラリー入場者数		12,610	8,744	11,483	7,883	9,241	7,873	10,447	7,177	8,648	5,955	7,150	5,682
喫 茶 利 用 者 数		12,051	7,866	9,019	8,490	7,206	7,270	6,053	5,158	4,658	4,987	6,101	4,432
入 館 者 数 計		87,754	58,386	66,801	61,332	63,699	54,980	75,680	57,207	58,859	46,761	49,196	30,965

(人)

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	開館以来 累 計
展 覧	一 般	11,609	11,936	14,814	411,717
	大学生・高校生	236	239	388	16,433
	中学生・小学生	3,820	2,284	2,974	53,519
会	会員券・招待 視察等	15,264	16,596	17,809	839,747
観 覧 者 数 小 計		30,929	31,055	35,985	1,321,416
市民ギャラリー入場者数		6,690	4,337	6,012	330,328
喫 茶 利 用 者 数		5,134	5,444	5,849	287,181
入 館 者 数 計		42,753	40,836	47,846	1,938,925

※4月1日～3月31日



利用案内

■開館案内

午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

■休館日

4月～11月／無休

12月～3月／月曜日休館(祝日の場合は翌日)

年末年始休館／12月29日～1月3日

※但し、年間を通じて展示替等による休館あり

■観覧料

区 分	一般展		特別展	年間券(1年間有効)	
	個 人	団 体			
一 般	700円	560円	展覧会によって 異なります。	3名まで 3,300円	10名まで 16,500円
高 校 生	350円	280円			
中 小 生	無料	無料			

※料金の一般に、大学・専門学生も含まれます。

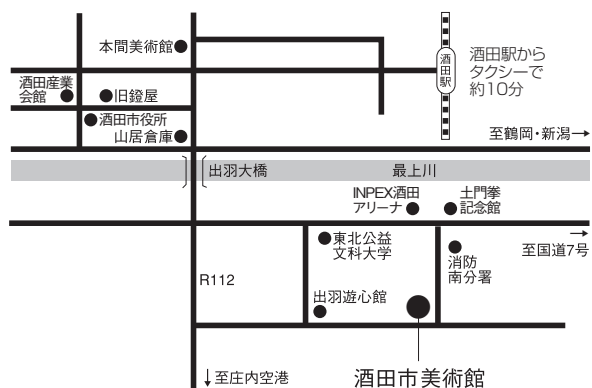
■市民ギャラリー使用料

区 分	全 面	半 面
全 日	5,500円	2,750円
半 日	2,750円	1,370円

※酒田市外の団体、個人は倍額とします。受付は6ヶ月前より。

※冬期間(12月～3月)は半額となります。

■案内図



[交通のご案内]

◆JR東日本酒田駅／るんるんバス 20分 タクシー 約10分

◆庄内空港／タクシー 約20分

◇駐車場 美術館無料駐車場有(110台収容)

酒田市美術館年報

〔令和4年度——令和5年度〕



令和7年3月

編集・発行 酒田市美術館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山三丁目17-95

TEL 0234-31-0095

FAX 0234-31-0094

<https://www.sakata-art-museum.jp>

印刷所 株式会社小松写真印刷

